

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書
(令和5年度対象)

令和6年8月
川越市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	点検及び評価の実施方法	2
III	評価の基準	2
IV	学識経験者の知見の活用	3
V	細施策の表について	3
VI	施策の体系と指標	4
VII	施策の評価一覧	11
VIII	進行管理（点検評価）シート	12
	施策1 確かな学力の育成	13
	細施策	16
	施策2 豊かな心と健やかな体の育成	23
	細施策	26
	施策3 自立する力の育成	34
	細施策	36
	施策4 多様なニーズに対応した教育の推進	39
	細施策	41
	施策5 教育の質を高める環境の充実	45
	細施策	47
	施策6 学びを支える教育環境の整備・充実	54
	細施策	56
	施策7 家庭・地域の教育力の向上	63
	細施策	65
	施策8 生涯学習活動の推進	69
	細施策	72
	施策9 文化財の保存と活用	79
	細施策	81
IX	用語説明	86

I はじめに

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づいた川越市教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った結果についてとりまとめたものです。

教育委員会は、市長から独立した立場で教育行政に関する基本方針のもと、学校教育や社会教育など広範かつ専門的な教育行政事務を管理及び執行するために設置された合議制の機関（行政委員会）です。

法に基づいて、毎年、教育委員会が事前に策定した「基本方針」にそって具体的な教育行政に係る事務が管理及び執行されているか、教育委員会自らが点検及び評価を実施しています。

この報告書は、令和3年6月に策定した第三次川越市教育振興基本計画の施策について、教育に関する学識経験を有する方々の知見を活用し、教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について報告するものです。

川越市教育委員会は、この点検及び評価の結果及び学識経験を有する方々からいただいたご意見を生かし、これからも、計画的かつ効果的な教育行政を推進してまいります。

なお、川越市教育委員会では、第三次川越市教育振興基本計画の施策を点検及び評価の対象とし、同計画の進行管理も兼ねて、報告書としています。

<参考>

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律<抄>

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○第三次川越市教育振興基本計画第1章 I 「4 計画の進行管理」

計画を効果的に推進するため、主な施策の指標・目標値を設定するとともに、施策の評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、毎年、外部有識者の知見を活用し行うこととします。

* 新型コロナウイルス感染症の影響

3年以上続いたコロナ禍での事業等の実施については、感染拡大防止対策を行ったうえで実施した事業もありましたが、学校においては学級閉鎖や学年閉鎖もあり、やむを得ず延期や中止とした事業等もありました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、これまで延期や中止とした事業等を再開することができるようになってきました。

II 点検及び評価の実施方法

第三次川越市教育振興基本計画は、9つの施策を基に、28項目の施策の柱と89項目の細施策で構成されています。施策ごとに、その成果を表す指標を40項目設け、目標値を掲げています。点検及び評価は、この40項目の指標について目標値までの達成状況により担当課が評価し、紐づいた細施策の実績や進捗状況等もあわせて、施策について総合的な評価を行います。その評価と施策全体について、学識経験者からご意見をいただきます。

III 評価の基準

各指標については、現在値(令和元年度)からの経過等も考慮し、目標値(令和7年度)から見た令和5年度実績値により、大きく次の4区分で進捗状況を評価しました。

- ・ 進捗が順調である。
目標値から見て実績値の達成状況が80%以上。
 - ・ 進捗がおおむね順調である。
目標値から見て実績値の達成状況が50%以上80%未満。
 - ・ 進捗があまり順調ではない。
目標値から見て実績値の達成状況が20%以上50%未満。
 - ・ 進捗が順調ではない。
目標値から見て実績値の達成状況が20%未満。
- ・ 各施策については、指標の評価だけでなく、細施策の事業実績等も包含した上で、次の4区分により総合的に評価しています。
- A 達成度、進捗が順調である。
 - B 達成度、進捗がおおむね順調である。
 - C 達成度、進捗があまり順調でない。
 - D 達成度、進捗が順調でない。

IV 学識経験者の知見の活用

点検及び評価の実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」に関して、下記の4名からご意見をいただき、点検及び評価の内容に反映させていただきました。

五十音順 敬称略

氏 名	備 考
近 藤 誠	元 川越市立中学校長
桜 井 信 枝	ふじみ野市文化協会事務局長
関 本 晶 子	川越市PTA連合会総務財政委員長
眞 下 英 二	尚美学園大学教授

V 細施策の表について

- ・細施策ごとに、関連指標を示す欄を設けています。この欄には、この細施策を推進することにより、目標値の達成に近づくと考えられる施策の指標を記入しています。
- ・細施策によっては、施策の指標との関連が少ないものもあり、関連付けが難しいものは「成果実績」の欄を設け、令和5年度までの直近3か年の実績を記入しています。
- ・「施策の内容」は、第三次川越市教育振興基本計画で示しているものです（P l a n）。
- ・「令和5年度の主な実績」は、「施策の内容」に示されていることを推進した取組内容を記入しています（D o）。
- ・「現状・課題」は、取組を進めるうえで、あるいは施策の内容を推進するなかで捉えた、現状と課題を記入しています（C h e c k）。
- ・「課題解決のための取組」では、前段の課題を解決するための取組について記入しています（A c t i o n）。

*進行管理（点検評価）シート上で、いわゆるP D C Aを確認し、継続的な改善に努めています。

施策の内容（P l a n）→令和5年度の主な実績（D o）

→現状・課題（C h e c k）→課題解決のための取組（A c t i o n）

VI 施策の体系と指標

施策1 確かな学力の育成 (13～22 ページ) ⇒重点施策

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 学力向上の推進	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進 【教育指導課】 ②各種調査結果の分析・活用【教育指導課】 ③少人数指導の推進【学校管理課・教育指導課】 ④ICT活用の推進【教育指導課】 ⑤家庭学習の充実【教育指導課】
(2) 校種間連携の推進	①幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携【教育指導課】 ②小中連携、小中一貫教育の推進【学校管理課】
(3) グローバル化に対応する教育の推進	①英語指導助手の配置事業の充実【教育センター】 ②小学校・中学校英語教育の充実【教育センター】
(4) 学校教育の情報化の推進	①情報活用能力の育成【教育指導課】 ②情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成 【教育指導課】 ③教育の情報化に関する推進体制の充実【教育指導課】 ④ICT環境の整備【教育指導課】 ⑤ICT活用の推進（再掲）【教育指導課】
指標【担当課】 [関連の深い細施策]	
1 国語、算数・数学の授業は分かると思った児童生徒の割合 【教育指導課】 [(1)－①～⑤]	
2 全国学力・学習状況調査の、全国の正答率を上回る教科数 【教育指導課】 [(1)－①～⑤]	
3 小・中学校 54 校の校種間連携教育達成状況【学校管理課】 [(2)－②]	
4 英語指導助手を授業中に「積極的に活用した(する)」と回答した学校の割合 【教育センター】 [(3)－①]	
5 生徒の英語力の状況【教育センター】 [(3)－②]	
6 児童生徒の情報活用能力の状況【教育指導課】 [(1)－④・⑤、(4)－①～④]	

施策3 自立する力の育成 (34～38 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 進路指導・キャリア教育の充実	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実【教育指導課】 ②小学校・中学校・高等学校の系統的なキャリア教育の充実【教育指導課】
(2) 主体的に社会の形成に参画する力の育成	①主権者教育の推進【教育指導課】 ②環境教育の推進【教育センター】 ③消費者教育の推進【教育指導課】
指標【担当課】 [関連の深い細施策] 1 将来の夢や目標があると回答した児童生徒の割合【教育指導課】 [(1)-①] 2 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合【教育指導課】 [(1)-②、(2)-①・③]	

施策4 多様なニーズに対応した教育の推進 (39～44 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 特別支援教育の充実	①一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実【教育センター】 ②就学支援の充実【教育センター】 ③特別支援教育の理解・啓発の推進【教育センター】
(2) 一人ひとりの状況に応じた支援	①多様化する学校課題を解決する事業の推進【学校管理課・教育センター】 ②外国人児童生徒支援の充実【学校管理課】 ③教育機会均等化のための支援【教育総務課・教育財務課】
指標【担当課】 [関連の深い細施策] 1 特別支援学級設置率【教育センター】 [(1)-①] 2 特別支援教育に係る教職員研修達成度【教育センター】 [(1)-③] 3 臨時講師（オールマイティーチャー）配置の効果調査において「向上」と回答した割合【学校管理課】 [(2)-①]	

施策5 教育の質を高める環境の充実 (45～53 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 教職員の資質向上	①教職員研修の充実【教育センター】 ②中堅教職員・臨時的任用教員の育成【学校管理課・教育センター】 ③教職員研修の効果的な実施【教育センター】
(2) 教職員の働き方改革	①勤務時間を意識した働き方の推進【学校管理課】 ②事務負担軽減への取組【学校管理課・教育指導課】 ③悩みを抱える教職員のための支援体制づくり【学校管理課】
(3) 魅力ある市立川越高等学校づくりの推進	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進【市立川越高等学校】 ②進路指導力向上のための教職員研修の充実 【学校管理課・市立川越高等学校】 ③中学校・市立川越高等学校連携の推進【市立川越高等学校】 ④市立川越高等学校教育環境の整備・充実【市立川越高等学校】
(4) 市立特別支援学校の充実	①市立特別支援学校の整備・充実【市立特別支援学校】 ②市立特別支援学校のセンター的機能の充実【教育センター】
指標【担当課】 [関連の深い細施策] 1 研修目標達成度(5段階評価)【学校管理課・教育センター】 [(1)-①～③] 2 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合 【学校管理課】 [(2)-①～③] 3 市立川越高等学校の生徒、保護者の満足度【市立川越高等学校】 [(3)-①～④] 4 市立特別支援学校のセンター的機能を活用した学校の割合【教育センター】 [(4)-②]	

施策6 学びを支える教育環境の整備・充実 (54～62 ページ) ⇒ **重点施策**

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 学校施設の整備・充実	①小・中学校施設大規模改造工事の推進【教育財務課】 ②小・中学校重要設備の更新【教育財務課】 ③小・中学校空調設備設置の推進【教育財務課】 ④学校図書館の充実【中央図書館・教育指導課】
(2) 小・中学校の適正規模・適正配置	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討【学校管理課】
(3) 学校給食の充実	①給食内容の充実【学校給食課】 ②学校給食施設の整備【学校給食課】
(4) 子どもたちの安全・安心の確保	①安全教育の推進【教育指導課】 ②防災教育の推進【教育指導課】 ③学童保育の充実【教育財務課】
(5) 教育センターの充実	①教育センター施設の整備・開放の充実【教育センター】 ②教職員・保護者・地域との連携研修の充実【教育センター】
指標【担当課】〔関連の深い細施策〕 1 大規模改造工事進捗率【教育財務課】 [(1)－①] 2 トイレ改修工事進捗率【教育財務課】 [(1)－①] 3 小学校における学校図書館図書標準達成率【教育指導課】 [(1)－④] 4 給食がおいしいと感じている児童生徒の割合【学校給食課】 [(3)－①] 5 放課後児童支援員の資格を有する職員の割合【教育財務課】 [(4)－③]	

施策7 家庭・地域の教育力の向上 (63～68 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 家庭や地域の教育力向上	①家庭教育の支援【地域教育支援課】 ②社会教育関係団体への支援【地域教育支援課】 ③地域の教育活動への支援【中央公民館】
(2) 家庭・地域と学校の連携・協働	①コミュニティ・スクールの導入の推進【学校管理課】 ②外部人材の積極的活用【学校管理課】 ③学校評価の活用【学校管理課】 ④学校・家庭・地域の連携推進【地域教育支援課】 ⑤放課後子供教室の推進【地域教育支援課】
指標【担当課】 [関連の深い細施策] 1 幼稚園・保育園家庭教育講座満足度【地域教育支援課】 [(1)-①] 2 コミュニティ・スクール導入校数【学校管理課】 [(2)-①] 3 各地区子どもサポート委員会新規加入委員数【地域教育支援課】 [(1)-③、(2)-④]	

施策8 生涯学習活動の推進 (69～78 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 市立公民館の充実	①ライフステージにおける課題や現代的課題の学習【中央公民館】 ②生涯学習活動の拠点としての公民館の運営【中央公民館】 ③公民館を活用した子どもの居場所づくりの推進【中央公民館】 ④公民館の設置及び既存公民館の整備 【地域教育支援課・中央公民館】
(2) 市立図書館の充実	①図書館サービスの充実【中央図書館】 ②図書館を利用した学習活動の推進【中央図書館】 ③図書館施設運営整備事業の推進【中央図書館】
(3) 市立博物館の充実	①展示機能の充実【博物館】 ②郷土資料の収集・保存【博物館】 ③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化【博物館】 ④博物館・蔵造り資料館の整備【博物館】

（施策8 生涯学習活動の推進 つづき）

施策の柱	細施策【担当課】
(4) 人権教育の推進	①人権教育の充実【地域教育支援課】 ②人権教育指導者の養成【地域教育支援課】 ③関係機関・団体等との連携【地域教育支援課】
指標【担当課】〔関連の深い細施策〕	
1 新規の公民館事業の講座数【中央公民館】 [(1)-①・③] 2 公民館講座新規参加者の割合【中央公民館】 [(1)-②・④] 3 デジタルアーカイブの公開件数【中央図書館】 [(2)-①] 4 小・中学生の図書館利用率【中央図書館】 [(2)-②・③] 5 展覧会での館蔵資料の公開点数【博物館】 [(3)-①~④] 6 博物館講座・教室受講満足度【博物館】 [(3)-③]	

施策9 文化財の保存と活用 (79~85 ページ)

施策の柱	細施策【担当課】
(1) 文化財の保存と活用	①文化財の保存と活用【文化財保護課】 ②無形民俗文化財の保存と後継者の育成【文化財保護課】 ③重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実【都市景観課】 ④河越館跡の整備・活用【文化財保護課】 ⑤山王塚古墳の保護【文化財保護課】
(2) 地域の歴史や伝統文化の継承	①文化財保護意識の啓発【文化財保護課】 ②地域の歴史・伝統文化の継承に向けた学びの促進 【文化財保護課・博物館】
指標【担当課】〔関連の深い細施策〕	
1 伝統的建造物の復原等修理費への助成件数【都市景観課】 [(1)-③] 2 重要伝統的建造物群保存地区の防災に関する活動への参加人数 【都市景観課】 [(1)-③] 3 河越館跡地の史跡公園整備事業進捗率【文化財保護課】 [(1)-④] 4 郷土学習を受けた学級数【文化財保護課・博物館】 [(2)-②]	

VII 施策の評価一覧

施 策	総 合 評 価				
	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
施策 1 確かな学力の育成	B	B	B		
施策 2 豊かな心と健やかな体の育成	B	B	B		
施策 3 自立する力の育成	B	B	B		
施策 4 多様なニーズに対応した教育の推進	A	A	A		
施策 5 教育の質を高める環境の充実	B	B	B		
施策 6 学びを支える教育環境の整備・充実	A	A	A		
施策 7 家庭・地域の教育力の向上	C	B	A		
施策 8 生涯学習活動の推進	B	B	A		
施策 9 文化財の保存と活用	B	A	A		

<重点的な取組>

第三次川越市教育振興基本計画では、9つの施策のうち、計画期間（令和3年度から5年間）に、特に力を注ぐべき施策を、次のとおり重点施策として選定しています。その他の施策についても本市教育にとって大切なものであり、教育委員会として全力を挙げて取り組んでいきます。

重点施策

- 施策 1 確かな学力の育成
- 施策 2 豊かな心と健やかな体の育成
- 施策 6 学びを支える教育環境の整備・充実

VIII 進行管理（点検評価）シート

施策 1 確かな学力の育成

重点施策

指標 1	【項目】 国語、算数・数学の授業は分かると答えた児童生徒の割合		【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、国語、算数・数学の授業は分かると回答した児童生徒の割合					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	78.6	—	80.3	81.0	80.2		90.0
担当課評価								
<p>【担当課】 教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 令和5年度の実績値が令和4年度の実績値より減少していますが、高い水準を保っています。 学校指導訪問、学力向上に係る訪問、教職員研修を実施し、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着をさらに進め授業改善を図りました。授業改善のモデル授業を新たに小学校外国語、中学校数学で作成しました。 今後も、「川越市小・中学生学力向上プラン」を活用した授業改善が進むよう、訪問による指導等に加え指定学校研究も活用し、継続して指導に取り組みます。 								
指標 2	【項目】 全国学力・学習状況調査の、全国の正答率を上回る教科数		【説明】 全国学力・学習状況調査の、全国の正答率を上回る教科数 小学校「国語・算数」2教科 中学校「国語・数学」2教科					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	教科	1/4	—	0/4	1/4	1/4		4/4
担当課評価								
<p>【担当課】 教育指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗はあまり順調ではありません。 正答率の経年変化では上昇傾向が見られますが、小学校「国語・算数」中学校「数学」で全国の正答率を上回っていません。 今後も、「川越市小・中学生学力向上プラン」を活用した授業改善を継続して進めるとともに、調査結果の分析を教育委員会と各小・中学校とで多角的に行い課題解決に取り組みます。 								
指標 3	【項目】 小・中学校54校の校種間連携教育達成状況		【説明】 連携教育の視点として示す7項目（目指す児童生徒像、教育課程、研究組織、生徒指導、教員と児童生徒の交流、児童と生徒の交流、教職員の交流）を達成した割合					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	16.7	6.9	6.1	9.8	10.5		100
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調ではありません。 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、児童生徒の交流や活動を再開することができました。 今後は、引き続き、ICTを活用するなどの連携方法の工夫や教育課程等に係る連携の取組事例等について、学校に対して情報提供を行います。 								

施策 1 確かな学力の育成

指標4	【項目】 英語指導助手を授業中に「積極的に活用した(する)」と回答した学校の割合			【説明】 市立小・中学校における英語教育実施状況調査(文部科学省)において、英語指導助手を、教員や児童生徒とのやり取り、発音指導等で「積極的に活用した(する)」と回答した学校の割合					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	%	82.7	81.8	88.3	79.6	94.4		100	
担当課評価									
<p>・進捗は順調です。</p> <p>・英語教育推進訪問や外国語科に係る研修会などの機会に、授業における英語指導助手の活用場面について例を挙げて具体的に助言しました。また、各校の英語指導助手の活用状況を示したリーフレットを個別に配布し、各校の状況に応じた助言を行いました。</p> <p>・小学校は全学校が全項目について「75%以上の授業で行った(行う)」と回答しました。中学校での英語指導助手の活用状況をさらに高めるために、主に英語教育推進訪問にて各学校に指導助言を行っていきます。</p> <p>【設問の変更】 英語教育実施状況調査に基づき指標に係る実績値を算出していますが、令和4年度の調査から設問内容が変更となり、英語指導助手の活用状況について、「75%以上の授業で行った(行う)」と回答した学校の割合となりました。</p>									
指標5	【項目】 生徒の英語力の状況			【説明】 英語力について、中学校卒業段階でCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA1レベル以上(実用英語技能能力検定3級相当以上)を達成した生徒の割合					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	%	43.3	45.2	46.1	54.5	60.8		70.0	
担当課評価									
<p>・進捗は順調です。</p> <p>・中学校卒業段階でCEFRのA1レベル以上を達成した生徒の割合は昨年度に比べて6.3ポイント向上しました。今後も目標値達成のために継続的に指導助言を行います。</p> <p>・外国語活動・外国語科研究委員会を活性化させ、授業の充実・改善に資するための教材・指導資料等を作成し、各学校に配布して活用を図るとともに、本市の実態に合ったより良い英語教育の在り方について検討を進めます。</p>									
指標6	【項目】 児童生徒の情報活用能力の状況			【説明】 「川越市情報活用能力育成系統表」の到達度を測るため、質問紙による調査を小2、小4、小6、中3の各学年末において実施する。その結果が4段階中上位2段階にあたる「肯定的」「やや肯定的」な回答となる割合					
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	%	小2	—	—	72.0	86.8	83.1		100
		小4	—	—	74.4	87.3	81.6		100
小6		—	—	77.1	90.4	86.1		100	
中3		—	—	87.8	93.0	90.7		100	
担当課評価									
<p>・進捗は順調ですが令和5年度の実績値が令和4年度よりも減少しているため、今後の取組には改善が必要です。</p> <p>・各学校で学習者用コンピュータの使用機会が昨年度と同程度確保された結果、肯定的な回答が多く見られたと考えられます。</p> <p>・全対象において、令和4年度と比較すると実績値が低下していることから、ICT機器の効果的な活用に併せ、令和4年度に作成した「情報モラル・情報セキュリティ指導カリキュラム」「プログラミング教育指導プラン」を基に、各校で継続して情報活用能力の向上を図ります。</p>									

施策 1 確かな学力の育成		総合評価 B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。 特に、指標4に係る英語指導助手の活用や指標5の「生徒の英語力の状況」については、高い実績値となり、英語教育に係る確かな学力の育成についての取組が順調に進んでいます。 しかし、指標2に係る正答率については、「川越市小・中学生学力向上プラン」を活用した授業改善により、正答率の経年変化では上昇傾向が見られますが、実績値に現れてはいません。また、指標3に係る校種間連携教育についても、児童生徒の交流や活動を再開することができましたが、目標値に対して進捗が順調ではありませんでした。引き続き、目標達成に向けた取組を進めます。</p>	
学識経験者等 学意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修や学校指導訪問等で具体的な考え方を示しながら、授業スタンダードをよりよいものへと変え、多くの学校で活かされることが必要である。 ・ 現在は教職員のなり手が少ないため、校種間連携をより推進し、様々な人材を様々な形で活用していく中で、学校文化を開かれたものにしていく必要がある。 ・ 校種間で連携を図ることで、地域との交流を活発にする一助となると考える。各学校で工夫して取り組んでいただきたい。 ・ 学校運営協議会においては、地域と学校のつながりについて議論する場を設けることで、より早く課題を発見し、解決につなげられると考える。 ・ リーディングDX事業においては、整備したICT機器について、中の機能をさらに活用していくことができるように、モデル校での内容をしっかりと共有し、引き続き取り組んでいただきたい。 ・ 情報活用能力の育成に関する教育やICTに関する施策について、しっかりと進めており評価できる。 	

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進するため、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す授業スタンダードの定着と、より一層の浸透を図ります。 学校指導訪問により教員一人ひとりの指導力向上を図り、学校の教育力向上を目指します。 学力向上に係る研修会を充実させ、令和2年度から同4年度までの3カ年計画で授業スタンダード「川越市小・中学生学力向上プラン」を確立し、教員の指導力を向上させます。また、各学校の「川越市小・中学生学力向上プラン」の取組について共有を図ります。 市立小・中学校に理科教育に係る支援員（理科実験助手）を配置し、実験・実習の準備や補助を行い、体験的な学習及び個別指導などの充実を図ります。 小学校高学年での教科担任制導入を積極的に進められるよう、モデル校研究などを通して、教科担任制の導入を図ります。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標:指標1</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校指導訪問 27回 学力向上プランに係る研修会 3回（学力向上推進教員研修会） 学力向上に係る学校訪問と研究授業の実施 54校（市立小中学校全校） 理科実験助手派遣 小学校16校 中学校6校 派遣回数440回 教科担任制モデル校研究 小学校12校 （福原 山田 川越第一 名細 霞ヶ関西 大東東 霞ヶ関 川越 高階南 寺尾 芳野 月越） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業スタンダードの理解や定着による授業改善が進んでいます。 学力向上プランに係る研修会を通して各学校の取組を共有しています。 理科実験助手の実験準備や観察補助等により、理科の学習時における個別指導の充実につながっています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川越市小・中学生学力向上プラン」の定着を各学校や各教員の経験年数等の実態に応じて進めることで、学校間の格差を埋めることが課題です。 学校指導訪問や学力向上に係る学校訪問による各学校の実態に応じた授業改善が必要です。 派遣回数に制限のある中、各学校における理科実験助手の有効活用に向けて、活用の好事例を周知していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 指定学校研究により授業改善へのモデル校研究に取り組みます。 学力向上プランを活用し、学力向上に係る研修会・授業研究を充実させます。 各種調査結果の分析による各学校の実態にあった授業改善への指導助言を行います。 		

細 施 策	②各種調査結果の分析・活用	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校に担当指導主事等を配置し、埼玉県学力・学習状況調査等の分析から、各学校の実態に応じた課題解決を図り、授業改善に活用します。 全国学力・学習状況調査と埼玉県学力・学習状況調査において、小中連携校ごとに、実態に合った分析を行います。 川越市中学生学力調査の結果分析により、学力向上・指導力向上及び進路指導の充実を図ります。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標:指標1</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 分析実施校 54校（市立小中学校全校） 川越市中学生学力調査の進路指導への活用 22校（市立中学校全校） 指導主事等による訪問指導 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各調査分析から、児童生徒の目線に立った授業改善や個に応じた指導への活用が進んでいます。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉県学力・学習状況調査において、県から提供される分析シートを効率的に使用して分析を行い、その分析結果の効果的な活用が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 各学校における各種調査分析を進めることによる授業改善への指導助言を行います。 川越市中学生学力調査の結果分析を基に学力向上及び進路指導の充実を図ります。 各校が行っている調査分析活用の好事例を周知します。 		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	③少人数指導の推進	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育活動を推進するため、オールマイティーチャーを配置し、少人数指導やティーム・ティーチングなどの指導の充実を図ります。 オールマイティーチャーによる支援により、児童生徒の学ぶ意欲と自己肯定感を高める、安定感と活力のある学級づくり、自分自身を素直に表現でき、自分や相手と素直に向き合える学級づくりを推進します。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標1</p>		
令和5年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> オールマイティーチャー配置 13校13名（小学校4校、中学校9校） ※中学校は、国語2名、社会2名、英語2名、数学2名、通級1名 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導方法の工夫改善（教科指導充実加配）による実施時数 小学校 31校 総実施時数 21,533時間 中学校 22校 総実施時数 12,580時間 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校ごとに課題を明確化し、解決に向けた目標を設定しました。その上で、効果的な活用となるよう計画を立てています。そのため、実態に応じた、きめ細やかな指導ができています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の課題の解決を図っていくために、継続的な配置を行う必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や学校の状況を踏まえ、課題解決に向けた、より効果的な活用ができるように校長に指導します。 学校を訪問して、教科指導方法や児童生徒への関わり方について、オールマイティーチャーに対し直接指導するなどして、指導力向上へとつなげます。 各学校における効果を検証しながら、オールマイティーチャー配置事業の拡充を進めます。 		

細 施 策	④ICT活用の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習を推進します。 ICTを活用した双方向型の授業を推進します。 児童生徒一人ひとりの考えを共有し、多様な意見にも触れられるようにします。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標1・指標2</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> e-授業テンプレート集の拡充・周知 川越GIGAポータルサイトの拡充・周知 クラウドサービスを通じた課題配信 54校（市立小中学校全校） オンライン会議システムを使用した同時双方向型オンライン学習の実施 リーディングDXスクール事業実施（小・中学校 各1校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適化された学びや考えの共有ができるICTを活用し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに合わせた授業実施を図るために取組を進めています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したより個別最適化された学習の充実に向けた事例の創出及び周知が求められています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 授業等で使用する雛形を掲載した「e-授業テンプレート集」の充実及び市立学校全校への周知とICTの効果的な活用に向けた授業改善を図ります。 リーディングDXスクール事業において作成された事例を市立小・中学校の実践へとつなげるため、事例の周知を図ります。 		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (1)学力向上の推進

細 施 策	⑤家庭学習の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ICTを日常的・効果的に活用した家庭学習を推進します。また、長期にわたる臨時休業を実施した場合に、家庭にネットワーク環境がなく、かつ経済的に支援が必要な家庭に対して、モバイルWi-Fiルーターを貸与するなどして、家庭でICTを活用した学習を実施できるようにします。 各種調査の結果分析から課題を把握し、「川越市小・中学生学力向上プラン」に家庭学習の進め方を掲載し、家庭学習の充実を図るとともに、家庭学習に取り組む意識についても高めていきます。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標:指標1・指標2</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学級閉鎖や出席停止時における同時双方向型オンライン学習の実施等の学びの保障 家庭にネットワーク環境がない児童生徒に対するモバイルWi-Fiルーターの貸与（貸与台数延べ27台） 「川越市小・中学生学力向上プラン【家庭学習版】」による家庭学習の啓発 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級閉鎖や出席停止時、その他必要に応じて家庭にネットワーク環境がない児童生徒に対して、通信契約を行ったモバイルWi-Fiルーターを貸与しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭におけるICT活用を含めた家庭学習の実施に向け、家庭にネットワークがない場合における家庭学習でのICT活用について事例の創出及び周知が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用を含めた家庭学習の方向性を示した「川越市小・中学生学力向上プラン【家庭学習版】」を各小・中学校へ周知し、家庭学習の充実を図ります。 リーディングDXスクール事業において作成された事例を市立小・中学校の実践へとつなげるため、事例の周知を図ります。 		

【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	①幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携	担当課	関連指標								
		教育指導課	—								
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を、学校・園において共有し、それぞれの教育・保育に生かすとともに、就学前の幼児期の育みや学びを小学校に受け継ぎ、次の段階である児童期の学びと育ちに発展させます。そのことで、「小1プロブレム」の解消や学力向上を図ります。 川越市幼児教育振興審議会にて園・小学校の連携の在り方や各年の研究実践について話し合い、研究主題の設定や研修会の開催などを通じて、園・小学校の円滑な接続と幼児教育の充実を図ります。 園・市立小学校の教職員等へ教育委員会主催の研修会を開催し、幼児教育の充実を図ります。 										
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育振興審議会 3回 「子どものよりよい成長を考える研修会」を開催（対面） 幼保小連絡懇談会 6会場で実施 市内全園・市立小学校へ「川越市ときも学びのプロセス」を配布 川越市幼保小連携モデル指定校・園に小学校4校、幼保4園を指定し研究を推進 架け橋期カリキュラムを4事例作成 										
成果実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目名（単位）</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種連携会議の参加者数（名）</td> <td>201</td> <td>225</td> <td>221</td> </tr> </tbody> </table>	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	各種連携会議の参加者数（名）	201	225	221		
項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度								
各種連携会議の参加者数（名）	201	225	221								
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 園・学校で幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有が進んでいます。 市内全園・市立小学校の教職員等への研修会等を開催し、幼児教育の充実を図っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びの連続性を踏まえ、どのように幼保小の連携を深め、共通理解を図っていくかが課題です。 										
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期及び小学校の9年間を見通した資質・能力を育成します。 幼保小連携モデル校を指定し、研究の成果を周知していきます。 「川越市ときも学びのプロセス」を配布し学びの連続性を踏まえた取組を行います。 										

- 【施策】 1 確かな学力の育成
 【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	②小中連携、小中一貫教育の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校が連携し「中1ギャップ」の解消を図ります。 ・各ブロックの小学校と中学校が、小中連携計画書に基づいた連携を図ります。 ・教科等について9年間の系統性を踏まえた学習を推進します。 ・小中連携研究委嘱校の研究成果を生かし、教育課程の連携を更に推進させ、小中一貫教育の充実を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区の小学校と中学校による計画書の作成と取組 ・校種間連携教育研修会の開催 1回（6月） ・市立小中学校全校からの報告を取りまとめ、電子データにて報告書を市立小中学校全校へ送付 ・小中合同研修会等に指導主事等を派遣し、小中一貫教育の実施に関して助言 ・校長会と連携し、校種間連携がより充実するよう、小中学校合同研修会等を全市同一日に実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、教員同士の交流や児童生徒の交流が再開してきました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、複数の小学校から進学する中学校区等の校種間連携の在り方について検討していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校種間連携の在り方については、埼玉県『小中一貫教育推進ガイド』や他市町村の事例等を参考に引き続き研究を進めていきます。 ・各中学校区における小学校と中学校が、小中連携計画書を作成し、それに基づいた連携を図ります。 ・交流や活動がより活発化するよう、ICTを活用する等の工夫について情報提供するとともに、複数の小学校から進学する中学校区においては、連携が更に進むよう、具体的な目標を設定するなど指導助言を行います。 		

- 【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	①英語指導助手の配置事業の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」等の技能を伸ばすため、市立小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の活用方法の充実を図ります。 ・英語指導助手を対象とした研修会や全学校への英語教育推進訪問を実施し、外国語活動・外国語科の指導方法の工夫・改善、児童生徒とのよりよい接し方等について、英語指導助手の資質向上を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・英語指導助手配置日数 小学校3,266日 中学校1,646日 高等学校125日 特別支援学校17日 ・英語指導助手研修会 12回 ・英語教育推進訪問 56校（市立学校全校） ・英語指導助手配置人数 31名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の学級数に応じて英語指導助手を計画的に配置しました。配置日数は前年度とほぼ同水準です。各校における英語指導助手の活用状況も改善しました。 ・全市立学校を対象に実施した英語教育推進訪問や、英語指導助手研修会を通して、英語指導助手の資質向上を図りました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校において、外国語科主任を中心に、英語指導助手を授業内のより多くの場面で効果的に活用することができるようにするための指導及び支援が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特に中学校における英語教育推進訪問においては、外国語科主任の同席を依頼し、各学校の実態に応じて具体的に指導助言を行うとともに、各校における外国語科部会を充実できるよう支援します。 		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (3)グローバル化に対応する教育の推進

細 施 策	②小学校・中学校英語教育の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育の小学校中学年で導入や高学年での教科化に伴い、外国語活動・外国語科における授業等の充実・改善を図るため、外国語活動・外国語科研究委員会等において教材・指導資料等を作成し、各学校に配布して活用します。 ・小学校・中学校間における円滑な学びの接続を行うために、市立小・中学校の外国語活動・外国語科の授業を担当する教員等を対象とした研修、授業公開、合同研修等を実施し、教職員の外国語の指導力向上を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動・外国語科研究委員会 5回 ・小・中学校外国語活動・外国語科指導力向上研修会 2回 ・外国語活動・外国語科授業スタンダード研修会 2回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動・外国語科研究委員会で作成した教材・指導資料等を、学校に配布しました。 ・小・中の接続を主題とした研修、授業公開、合同研修を行い、順調に進捗しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研修会の質を向上させ、教職員の外国語の指導力のさらなる向上を図る必要があります。 ・児童生徒が外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を着実に育成するため、本市の実態に合ったより良い英語教育の在り方について検討していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた取組を行っている教員の授業を通して研究協議を行うなど、英語教育に係る研修の機会を充実させます。 ・外国語活動・外国語科研究委員会を活性化させ、本市の英語教育の充実に向けて様々な教員の意見を踏まえて議論を行います。 		

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	①情報活用能力の育成	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の情報活用能力を育成するために、ICTを活用した学習活動の実施に係る指標を設定し、各学校においてICTを活用した学習活動を推進します。 ・児童生徒のプログラミング的思考等の育成を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報活用能力の育成」のための年間指導計画の改善 ・「ICTを活用した年間指導計画例」を基に各学校で作成した年間指導計画に基づく授業実施 54校（市立小中学校全校） ・令和5年度GIGAプログラミング教育研修会（オンデマンド） 1回 ・リーディングDXスクール事業実施（小・中学校 各1校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の基本的な操作に関わるスキル等についてはどの学年においてもある程度の定着が見られ、学習においてICT機器を使用することの困難さは減少しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の基本的な操作に関わるスキルのある程度の定着が図られたことから、効果的なICT機器の活用を推進することが課題です。 ・「プログラミング教育指導プラン」に基づき、児童生徒の発達段階に応じてプログラミング的思考について着実に育成していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で使用する雛形を掲載した「e-授業テンプレート集」の充実及び市立学校全校への周知とICTの効果的な活用に向けた授業改善を図ります。（施策1-(1)-④ 再掲） ・児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力リストの市立学校全校への周知と効果的な活用を図ります。（施策1-(1)-④ 再掲） ・「情報モラル・情報セキュリティ指導カリキュラム」「プログラミング教育指導プラン」の活用を含めた実践事例をリーディングDXスクール事業を通じて創出していきます。 		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	②情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C Tの間違った利用が、個人や社会に経済的・精神的損害を与えることを児童生徒が理解し、正しい情報活用方法を学ぶなど、新たな情報倫理上の課題に対応できる情報セキュリティや情報モラルに関する資質・能力の育成を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員を対象とした情報モラル・セキュリティ研修 1回 ・ 「情報モラル・情報セキュリティ指導カリキュラム」周知 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究指定校において「情報モラル・情報セキュリティ指導カリキュラム」の周知を行いました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器の基本的な操作に関わるスキルについてある程度の定着が見られる中で、安全に活用を進めるために情報モラル教育・情報セキュリティ教育を年間指導計画に位置付け、実施していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「情報モラル・情報セキュリティ指導カリキュラム」の市立小中学校全校へのさらなる周知と効果的な実施を図ります。 		

細 施 策	③教育の情報化に関する推進体制の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C Tを日常的・効果的に活用するため、教員の I C T活用指導力の向上に努めるとともに、 I C T支援員をはじめとした専門的な知識を有した外部人材を継続的に活用します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ G I G Aスクール運営支援センター訪問支援員による訪問支援 延べ938回訪問 ・ 問い合わせ窓口の整備 延べ2,460件相談 ・ I C Tの活用に苦手意識を持っている教職員に対する対面によるフォローアップ研修 1回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の情報化についての質問や課題への対応等に専門人材を活用して取り組んでいます。 ・ 個々の教職員の I C T活用指導力の向上を図るため、研修等を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な学校の状況に合わせ、ニーズに合った支援体制を整備していく必要があります。 ・ 教職員の I C T活用指導力に差がある中で、必要な情報にアクセスできる環境が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の希望や状況に応じて、個人のニーズに合った研修を実施することで I C T活用指導力を育成します。（管理職研修・校内リーダー養成研修・指導力に応じた研修） ・ 川越市 G I G Aポータルサイトを活用し、教職員が情報を取得しやすい環境を G I G Aスクール運営支援センターを用いて整備していきます。 		

【施策】 1 確かな学力の育成

【施策の柱】 (4)学校教育の情報化の推進

細 施 策	④ ICT環境の整備	担当課	関連指標
		教育指導課	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを日常的・効果的に活用した学習活動を実現するために、高速大容量の通信ネットワークや情報端末の保守整備、教職員や児童生徒のアカウント管理等、ICT環境を継続的に充実させていきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1校につき1回線の1Gbpsベストエフォート回線の維持・管理 54校（市立小中学校 全校） ・ GIGAスクール運営支援センターの業務委託による通信回線の維持・管理 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1校につき1回線の1Gbpsベストエフォート回線の維持・管理を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に必要とされる情報量の更なる増加やセキュリティ強化のための、通信回線の帯域増強と機器の構成改善が課題です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用コンピュータやネットワーク機器、大型提示装置など学校に整備された既存のICT機器等の継続した運用・保守を行います。 ・ 国の計画で示されている内容に基づき、新規に整備するICT機器やネットワークについて検討します。 		

施策 2 豊かな心と健やかな体の育成

重点施策

指標 1	【項目】 自分にはよいところがあるとする 児童生徒の割合		【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、 「自分にはよいところがある」と回答した児童生 徒の割合					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	78.6	—	74.0	79.5	81.4		90.0
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 ・進捗は順調です。 ・各学校において、すべての教育活動を通じて、自己存在感や自己肯定感、それら に裏付けられた自己有用感などを育てていきます。								
指標 2	【項目】 「規律ある態度」達成度80%以上の 項目数の割合		【説明】 埼玉県学力学習状況調査 質問紙調査において、 達成率が80%以上であった項目数の割合（対象 小・中学生）					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	92.6	88.9	83.3	83.3	95.8		100
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 ・進捗は順調です。 ・ここ数年、コロナ禍の影響で激減していましたが、例年と比べ大幅に増加しま した。規律ある態度が児童生徒に身に付いてきていることが分かります。 ・児童生徒の規律ある態度の向上のため、引き続き、学校訪問等による学校への支援 や、保護者会等における家庭への啓発に努めます。								
指標 3	【項目】 児童一人あたりの読書冊数		【説明】 川越市小江戸読書マラソン実施状況調査における 実施期間中の平均読書冊数					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	冊	59.3	60.6	58.1	56.7	58.5		65.0
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 ・進捗は順調です。 ・令和4年度よりも実績値が上昇したものの、今後より一層の改善を目指します。 ・「読書紹介文コンクール」や「小江戸読書名人賞」「小江戸小・中学生ビブリ オバトル」等、児童が本を手にする機会となるような取組を継続的に行います。 ・各取組について、各校の学校司書との連携を図ります。								
指標 4	【項目】 生徒一人あたりの読書冊数		【説明】 川越市小江戸中学生読書手帳活用状況調査に記入 された平均読書冊数					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	冊	8.4	10.2	10.4	8.6	7.9		15.0
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 ・進捗はあまり順調ではありません。 ・2年連続で実績値が減少しており、今後の取組には改善が必要です。 ・「読書紹介文コンクール」や「小江戸読書名人賞」「小江戸小・中学生ビブリオバ トル」等、生徒が本を手にする機会となるような取組を継続します。 ・図書廃棄を適切に進めることで、学校図書の蔵書の入れ替えを計画的に行い魅力あ る図書館づくりを進めていきます。								

施策 2 豊かな心と健やかな体の育成

指標5	【項目】 いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合		【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合（対象：小学校第6学年・中学校第3学年）					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	95.9	—	97.2	96.8	96.6		100
担当課評価								
【担当課】 教育指導課								
<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調ですが、令和5年度の実績値が令和4年度の実績値より減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 ・児童生徒のいじめについての理解を深めるため、教育活動全体を通じて、継続的に指導していきます。 								
指標6	【項目】 不登校児童生徒の割合		【説明】 年間30日以上欠席（病気・経済的理由等を除く）の児童生徒の割合					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	小 0.78 中 3.6	0.88 3.8	1.17 4.9	1.65 5.6	2.27 6.2		0.39 1.8
担当課評価								
【担当課】 教育センター								
<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調ではありません。 ・近年児童生徒を取り巻く社会環境の変化に加え、不登校の背景や要因が多岐に渡っているため、数値が上昇していると考えられます。 ・「不登校児童生徒支援プラン」に基づき、不登校児童生徒を受け入れる環境と体制が少しずつ整備されています。 ・各学校へ「校内学習室」の設置を推進し、不登校や教室に入りづらい児童生徒の教室以外での学校内の居場所と、多様な教育機会の確保に努めます。 								
指標7	【項目】 新体力テストの目標値達成児童生徒の割合		【説明】 埼玉県が設定する、新体力テスト指標のA、B、Cを達成した児童生徒の割合（小・中学校平均値）					
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	81.0	—	76.2	74.6	73.5		85.0
担当課評価								
【担当課】 教育指導課								
<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調ですが、令和5年度の実績値が令和4年度の実績値より減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 ・近年の気候変動による熱中症の危険性から、体育科授業をはじめとする体育的活動が十分に行えなかったことや、令和5年度から部活動の朝練習を中止したことにより、児童生徒の運動機会が減少したと考えられます。 ・今後も、児童生徒がより多くの体育的活動に取り組めるように学校を支援します。 								

施策 2 豊かな心と健やかな体の育成		総合評価
		B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。</p> <p>特に、指標1の「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」と、指標2の「「規律ある態度」達成度80%以上の項目数の割合」については高い実績値となり、豊かな心と健やかな体の育成についての取組が順調に進んでいます。</p> <p>しかし、実績値が後戻りした指標もあります。指標4に係る一人あたりの読書冊数については、学校図書蔵書の入れ替えを計画的に行い魅力ある学校図書館づくりを進め、指標6に係る不登校児童生徒への対応については、校内学習室設置を推進し、教室以外での学校内の居場所と多様な教育機会の確保に努めるなど、引き続き、それぞれの指標の目標達成に向けた取組を進めます。</p>	

学識経験者等 学意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は1つの社会であり、指標1と指標2の背後にある、学校生活がきちんと行えることも大切だと考える。 ・ 中学生の読書量については、本のページ数にもよるため、単に冊数のみを指標とすることは今後改善の必要があると考える。 ・ 1冊全部読み切ることの他に、様々な文献に触れることも必要だと考えている。ビブリオバトルのように、自分の好きな部分を語ることでできるような取組も継続していただきたい。 ・ 学びの場が多様化している。同年代と接する場となる学校だけを考えるのではなく、今後は様々な対応を考える必要がある。 ・ 不登校である自分のこどもに対して、元気に学校に毎日行ってほしいと切実に思っている保護者は大勢いる。そのような気持ちにも応える取組であってほしい。 ・ こどもたちの居場所づくりも課題であり、校内学習室の設置などは良い取組だと考える。 ・ オンラインの活用は、今後、こども一人ひとりの興味に合わせたこどもの可能性を広げる手段となると考える。 ・ 新体力テストの実績値について、コロナ禍の期間を踏まえると、目標値を達成する児童生徒の割合が回復するのはさらに先だと考える。運動する機会や時間数そのものが減っている中で、対応の工夫が必要だと考える。 ・ 不登校については課題が多くあるため、しっかりと意識して取り組んでいただきたい。
---------------	--

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	①道徳教育の充実	担当課	関連指標
		教育指導課・教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科の全体計画及び年間計画に基づき、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を強化し、道徳教育の充実を図ります。 「考え議論する道徳」の授業を実践するため、教員研修を推進します。 道徳科の授業を保護者や地域に公開するなど、家庭・地域と連携した道徳教育を推進します。 		
令和5年度の主な実績	<p>【教育指導課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校指導訪問を通じた教員への指導 27回実施 道徳教育研修会や学校指導訪問等を通しての指導力の向上 道徳教育研修会の実施(初任者研修・中堅教諭等資質向上研修・道徳科授業スタンダード研修会) 延べ286名参加 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【教育指導課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育研修会や学校指導訪問等を通して、児童生徒の道徳性を養い、道徳的な判断力、心情、実践意欲・態度を育てるための指導力の向上を図っています。 <p>課題</p> <p>【教育指導課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員一人ひとりの授業力をさらに高める必要があります。特に経験年数の少ない教員の、道徳教育への理解や指導技術に課題があります。 		
課題解決のための取組	<p>【教育指導課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育研修会や学校指導訪問等において、中心発問の設定の仕方等具体的な授業づくりについての指導を通して、実践的指導力の向上を図るとともに、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ります。 		

細 施 策	②規律ある態度の育成の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査及び市で実施している「規律ある態度」の調査の結果を分析するとともに、毎年度継続して本人・保護者・学校が共有・活用することで、学校と家庭が連携し、児童生徒一人ひとりの規律ある態度の育成に努めます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの生徒指導推進訪問の実施 56校(市立学校全校) 学校の実態に合った指導のための担当指導主事による訪問・支援 56校(市立学校全校) 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果によると「規律ある態度」の調査では、「時刻を守る」「身の回りの整理整頓をする」「ていねいな言葉づかいを身に付ける」「生活のきまりを守る」の質問項目は、どの学年においても80%以上の達成率を示しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の課題及び重点について、学校に周知徹底を図る必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやホームページ、保護者会等の機会を通して情報提供や啓発活動を行い、学校と家庭が連携して児童生徒の規律ある態度の育成に努めます。 指導主事等が学校を訪問した際には、本市及び各学校の課題を把握し、その課題に即した支援を行います。 		

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	③伝統や文化に関する教育の充実			担当課	関連指標
				教育指導課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を通して、日本及び川越の伝統文化の理解や国際理解教育を推進します。 児童生徒による地域行事への積極的な参加や市内教育施設の利用を通して、川越の歴史、人物等の魅力を体感する活動を推進します。 文化スポーツ部主催の「子ども文化芸術体験事業」の活用や市立美術館との連携事業を通して、児童生徒の文化芸術体験の充実を図ります。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 市立博物館及び美術館における学習の実施 32校（市立小学校全校） ※小学校3、6年生で実施 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	小学校6年生を対象とした市立博物館等での学習の実施校数（校）	32	32	32	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の歴史や文化等に係る充実した学びが進んでいます。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館・美術館学習に向けた事前学習及び事後学習の充実が課題です。 各学校の実態にあった伝統や文化に関する教育の実践を行う必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 日本及び川越の伝統文化への理解や国際理解教育の更なる推進を図ります。 授業実践や研修を通し、好事例を全市立学校で共有するなどして、川越市ふるさと学習の推進を図ります。 				

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	④読書活動の充実	担当課	関連指標
		中央図書館・教育指導課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を通して児童生徒が言語を学び、表現力を高め、感性を磨き、想像力を豊かなものにしていく過程で、豊かな情操を育成します。 ・保護者に対して、読書活動に関する情報提供を行い、家庭における読書習慣の重要性について共通理解を図ります。 ・引き続き、小江戸読書マラソンや、小江戸中学生読書手帳により、読書活動を推進します。 ・図書や図書館への興味・関心を持たせるため、市立図書館職員の学級訪問を通じて、読書活動の推進に努めます。 ・小・中学生に薦めたい図書のリーフレットを作成し、児童生徒が読書に親しむ環境の充実に努めます。 ・市立小学校・中学校・特別支援学校に学校司書を配置し、学校図書館の充実に努めます。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標：指標4</p>		
令和5年度の主な実績	<p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年3月「第四次川越市子ども読書活動推進計画」策定 ・小学校3年生に対し、学級訪問及び学級招待を実施（小学校32校、92学級、2,829名参加） ・小学校1年生に対し、学級訪問を実施（10校、30学級、875名参加） ・推薦図書を掲載したリーフレット配布 小学生用 4回、中学生用 1回 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小江戸読書マラソンの配布 小学校児童 ・小江戸中学生読書手帳の配布 中学校生徒 ・読書啓発リーフレットの作成・配布 小学校新1年生保護者 ・小江戸読書名人賞 1,889名受賞 ・読書紹介文コンクールの実施 190作品提出 ・小江戸小・中学生ビブリオバトルの開催 ・学校司書配置による学校図書館の充実 54校配置（市立小中学校全校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級訪問及び学級招待を実施し、読書活動の推進を図っています。 ・推薦図書を掲載したリーフレットを配布し、周知を行っています。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書マラソンや読書手帳の取組、読書紹介文コンクールやビブリオバトルを実施し、読書活動の推進が図れています。 <p>課題</p> <p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づき、学級訪問及び学級招待の他、こどもが本に親しむための機会を幅広く提供する必要があります。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問調査の「読書が好きですか」の問いで、全国平均より小学校は若干ではあるが低い結果となっており、さらに楽しく読書に親しめる環境の充実に努めていくことが課題です。 		
課題解決のための取組	<p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づくこどもの読書活動を推進するため、他機関との連携を図るとともに、引き続き学級訪問及び学級招待を実施します。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小江戸読書名人賞、読書紹介文コンクール、小江戸小・中学生ビブリオバトルを引き続き実施し、児童生徒が読書に親しむ環境のより一層の充実に努めます。 		

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	⑤体験活動の充実				担当課	関連指標
					教育指導課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の自然体験や農業体験を通して、学校における体験学習活動の充実を図ります。 ・市立小・中学校児童生徒を対象に、福祉体験、異文化体験、農業園芸体験等、地域や学校の実態に応じた特色ある教育活動を創造し、実施します。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校 小学校：32校 中学校：22校 					
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	体験活動実施校数(校)	小学校：11 中学校：9	小学校：19 中学校：16	小学校：32 中学校：22		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態に応じて、驚きや感動を体験できる特色ある教育活動を実施しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の連携や、地域人材の活用など地域に根ざした学校づくりの推進が必要です。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験、異文化体験、農業園芸体験等、地域や学校の実態に応じ、地域人材の活用も含めた特色ある教育活動となるよう工夫します。 					

【施策の柱】 (2)生徒指導の充実

細 施 策	①いじめ防止対策の推進				担当課	関連指標
					教育指導課	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市いじめ防止等のための基本的な方針」に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応するとともに、学校の「学校いじめ対策委員会」の機能を充実させ、いじめの積極的な認知、組織的な対応の徹底を図ります。 ・SNS等を通して発生するいじめの防止対策、学校指導体制や相談体制の整備、いじめ相談窓口の周知に努めます。 ・児童生徒が自らいじめ問題について考え、いじめ問題に正面から向き合い、「いじめは絶対に許さない」という雰囲気や学校全体に醸成できるように努めます。 ・児童生徒一人ひとりの自分に自信を持つ自己肯定感や自分は役に立っているという自己有用感を育み、学級、学年への所属感が高まるような学校経営に努め、いじめ防止を推進します。 ・定期的にアンケート調査や教育相談等を実施することにより、児童生徒及び保護者が日頃からいじめを訴えやすい機会や場を作ります。 ・教職員の生徒指導力の向上、いじめ問題対応等の資質能力の向上を推進するとともに、専門性を生かした関係職員・機関との連携や調整を積極的に推進します。 ・児童生徒の代表がいじめの未然防止等について話し合う、川越市小・中学校児童生徒連絡協議会等を活用し、いじめの未然防止に自発的に取り組む児童生徒の育成に努めます。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導推進訪問 毎学期訪問(56校×3回) ・「いじめアンケート」の実施 2回 ・川越市いじめ問題対策委員会の開催(第三者による川越市のいじめ対応等への指導助言) 3回 ・川越市いじめ・不登校対策検討委員会の開催(いじめ未然防止のための授業用ツール作成) 5回 ・「ストップいじめ」リーフレットの配布 56校(市立学校全校) 					
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の命に関わる深刻化、重篤化するいじめ事案は発生していません。 ・いじめの認知件数は小・中学校ともに増加しています。軽微な事案も積極的にいじめと捉えて対応している結果と認識しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒について、いじめに対する理解を深める必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導推進訪問や各種研修会を通して学校の生徒指導上の諸課題を共有し、いじめの認知・認定、初期対応の徹底や早期解決、解消に向けて指導助言していきます。 ・川越市いじめ・不登校対策検討委員会で作成した授業用ツールを、年度当初等に活用します。 					

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (2)生徒指導の充実

細 施 策	②不登校対策の推進	担当課	関連指標
		教育センター	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校における不登校問題の解消に向けて、「いきいき登校サポートプラン」を推進し、学校、家庭、多様な立場の専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。 いじめ・不登校対策検討委員会において、協議内容や成果物を基に不登校問題の未然防止や早期発見・早期対応に向け、具体的な取組を推進します。 学校・家庭及び福祉関連機関との連携や、ICTの活用などにより、不登校や不登校傾向にある児童生徒の支援の充実を図ります。 臨床心理士やスクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した相談体制の充実を図ることで、不登校児童生徒や保護者を支援し、不登校解消を目指します。 ※「いきいき登校サポートプラン」については、令和4年度から「不登校児童生徒支援プラン」に名称を変更しています。		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> さわやか相談員配置 22校(市立中学校全校) スクールソーシャルワーカー配置 7名(拠点型配置(学校)5名、派遣型配置2名) 教育センター第一分室(リベール)臨床心理士配置 1名 教育支援室(つばさ教室)での指導・支援を受けた生徒 9名 教育支援室(小学生学習支援室)での指導・支援を受けた児童 8名 校内学習室については、小学校が32校中26校、中学校が22校中20校で設置しました。 川越市いじめ・不登校対策検討委員会による「校内教育支援センター(校内学習室)活用事例集」を作成 		
現状・課題	現状 <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒数は年々増加傾向にあります。(小学校R4 290名→R5 389名、中学校R4 491名→R5 546名) コロナ禍で事業を中止していた「学生による不登校児童生徒支援事業」を再開しました。 市内学習室については、小学校が32校中26校、中学校が22校中20校で設置しました。 市立学校全校56校中50校が、スクールソーシャルワーカーを活用しました。 課題 <ul style="list-style-type: none"> 校内学習室を全校に設置するとともに、活動内容をさらに充実させる必要があります。 増え続ける不登校児童生徒の居場所づくりと学びの機会の確保が急務です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習室を各校訪問して取組内容を把握し、効果的な取組について指導助言を行います。 家庭、校内学習室、教育支援室等において一人一台端末を活用し、オンラインで授業を受けたり、所属するクラスとのつながりを作ったりすることができるようにします。 		

細 施 策	③教育相談の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標6
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 全市立中学校配置のさわやか相談員の資質向上を図るとともに、特色あるさわやか相談室づくりを推進し、不安や悩みを持つ児童生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 スクールカウンセラーや教育センター第一分室(リベール)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用した教育相談体制の充実及び教職員研修会や保護者向けセミナー等での活用の周知を図るとともに、リベール、教育センター第二分室の他、教育センターや川越市民サービスステーションを活用し、幅広く、児童生徒、保護者、学校に寄り添う教育相談を行います。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> さわやか相談員による年間の相談件数 13,502件(解決した件数の割合 68.6%) 面接相談、電話相談、いじめ相談直通電話、いじめ相談電子窓口の相談延べ件数 3,334件 臨床心理士による相談延べ件数 187件 		
現状・課題	現状 <ul style="list-style-type: none"> さわやか相談員が、いじめ・不登校・友人関係・心身の悩み等、多様な相談に応じました。 市内全域からの相談者を受け入れやすくするため、教育相談支援員による面接相談を、教育センター第一分室(リベール)の他に、川越市民サービスステーション(月曜日)、教育センター第二分室(水曜日)、教育センター(木曜日)で開設しています。 課題 <ul style="list-style-type: none"> 中学校におけるさわやか相談員の活用は周知されていますが、小学校でのさわやか相談員の活用については、学校によって差があります。 相談内容が多様化・複雑化し、緊急性の高い相談や学校との連携が必要な相談が増えています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談に係る研修での情報提供を通して、小学校支援を含めたさわやか相談室及びさわやか相談員の活用を図ります。 緊急性が高い相談については、引き続き臨床心理士が即時対応できるようにします。また、教育相談支援員等が臨床心理士からスーパーバイズを受けることで、専門性を要する相談に対応できるようにします。 		

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (3)健康の保持増進と体力向上の推進

細 施 策	①学校保健活動の推進				担当課	関連指標
					教育指導課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー・アナフィラキシー対応については、教職員研修の実施や関係機関との連携により学校における対応の充実を図ります。 ・発達段階に応じた性に関する教育及び指導、最新の情報を取り入れた薬物乱用防止教育の保健教育を推進します。 ・基本的な感染症対策を継続するとともに、児童生徒及び教職員の感染症に対する意識が低下しないよう指導徹底し、学校における感染及び感染拡大のリスクを低減し、児童生徒の健康の保持増進と健やかな学びの確保に努めます。 ・学校における感染症対策に関して、家庭・地域に適宜適切な情報発信を行い、理解・協力を得て、学校教育活動を柔軟かつ効果的に推進します。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との食物アレルギー・アナフィラキシー対応に係る情報共有と各学校への通知（通年） ・発達段階に応じた薬物乱用防止教室の実施 1回 56校（市立学校全校） ・生理用品を女子トイレに一定期間設置し現状を把握するための取組 56校（市立学校全校） ・学校に対する適切な換気やマスクの着脱についての指導 56校（市立学校全校） 					
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	薬物乱用防止教室の実施校数	56校 （市立学校全校）	56校 （市立学校全校）	56校 （市立学校全校）		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用についての児童生徒の知識理解が進んでいます。 ・学校における感染症対策に関して、各学校へ適宜適切な情報発信を行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性に関する指導、薬物乱用防止教室についての保護者の積極的な参加と家庭や地域へのさらなる啓発が必要です。 ・女子トイレに設置した生理用品を児童生徒が正しく使用できるように、各学校における保健指導を引き続き継続していく必要があります。 ・感染症対策についての対応と基本的な対策の継続を図る必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・性に関する教育や薬物乱用防止教室について学校だよりやホームページ等の活用により家庭や地域への啓発を充実させます。 ・女子トイレに設置した生理用品を児童生徒が正しく使用できるように、各学校における保健指導を引き続き継続していきます。 ・感染症発生時及び日頃の基本的な感染症対策について、児童生徒の実態に応じて対応できるよう指導を行います。 					

- 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成
 【施策の柱】 (3)健康の保持増進と体力向上の推進

細 施 策	②「いのちの教育」の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して命の大切さに関する指導を行い、自他の生命を尊重できる児童生徒を育成します。 がんについての正しい理解と、健康と命の大切さについて主体的に考えることができる児童生徒を育成します。 救急救命に関する知識や、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法が実践できる児童生徒を育成します。 市内関係機関と連携し、各学校で性に対する正しい知識を理解させ、全ての児童生徒が互いに理解・尊重でき、命を大切にす指導に取り組んでいきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> がん教育における川越市で作成したりフレットの配付（市立小学校6年生、市立中学校2年生）及び、それを活用した各学校での指導の実施 性に関する指導における学習指導要領に基づく指導の実施 54校（市立小中学校全校） 性に関する指導における市内関係機関の講師を活用した指導の実施（市立中学校20校） 市内関係機関と連携した救命教育における指導の実施（市立小学校11校 市立中学校4校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> がん教育や救命教育、胸骨圧迫及びAED使用などの心肺蘇生法の指導等により、児童生徒の知識理解が進んでいます。 性に関する内容についての児童生徒の知識理解が進んでいます。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> がん教育や救命教育、胸骨圧迫及びAED使用などの心肺蘇生法の指導等における効果的な外部講師の活用と各学校の実態に応じた授業改善が必要です。 性に関する指導については、児童生徒の発達段階を踏まえること、保護者の理解を得ること、各教科における指導と個別指導の連携を密にして指導することに配慮し、学校教育全体を通じて、引き続き指導を充実させる必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> がん教育や救命教育、胸骨圧迫及びAED使用などの心肺蘇生法の指導について、外部指導者等と連携を図り、児童生徒の実態に応じた授業改善を行います。 引き続き、性に関する指導について、市内関係機関と連携したり、体力向上推進委員会においてより効果的な指導方法を研究したりすることで、指導を充実させます。 		

細 施 策	③食育の推進	担当課	関連指標								
		教育指導課・学校給食課	—								
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、食に関して正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健康に生きるための力を育むことを目的とした食育を進めます。 研修会等を実施し、各学校の食育推進リーダーを育成します。 食に関する指導を推進するため、栄養教諭や各学校の食育推進リーダーを中心とした指導体制の整備を推進し、学校・家庭・地域への啓発や情報提供などの充実を図ります。 										
令和5年度の主な実績	<p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年では学級活動、小学校高学年および中学校では家庭科の時間を中心とした、食育指導の実施 栄養教諭による食に関する指導の実施回数：76回 <p>【学校給食課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「食に関する指導」の実施 32校（市立小学校全校） 対象 小学校2年生 延べ5,344名 学校からの依頼による各授業への給食指導（道徳や家庭科など）の実施 165回 15,761名 										
成果実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目名（単位）</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食に関する指導を実施した小学校数（校）</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	食に関する指導を実施した小学校数（校）	32	32	32		
項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度								
食に関する指導を実施した小学校数（校）	32	32	32								
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科や家庭科、体育科、特別活動等、教育課程に位置付けた計画的な「食に関する指導」を市立小学校全校で実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会等の機会を捉えて、食に関する指導の重要性を高めていくことが課題です。 										
課題解決のための取組	<p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲示物や配布物を活用し、家庭・地域への啓発や情報提供を行います。 <p>【学校給食課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、市内全小学校2年生を対象に「食の大切さ」を伝える授業を実施します。 										

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (3)健康の保持増進と体力向上の推進

細 施 策	④体力向上の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標7
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 新体カテストの結果を小学校段階から毎年度継続して本人・保護者・学校が共有し、活用することで、児童生徒一人ひとりの成長を支え、一人ひとりの体力を確実に伸ばす教育を推進します。 児童生徒体力向上推進委員会を中心として授業研究会を行うとともに、市立小・中学校における体カアップ運動を推進します。 近隣大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」等の実施を通して、児童生徒の運動への関心を高め、運動好きな児童の育成を図ります。 生徒の豊かな人間性を育み、体力向上にも資するよう「川越市立中学校の部活動の在り方に関する方針」等を基に、部活動を実施します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 新体カテストを実施 55校（市立小中学校全校、市立高等学校） 児童生徒体力向上推進委員会実施（体育活動部2回、保健安全部2回、全体会1回） 運動部活動の大会の開催 （主な大会 通信陸上大会、学校総合体育大会、新人体育大会） トップアスリートふれあい事業 6校 （中央小、今成小、芳野小、高階北小、寺尾小、名細小） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育科授業をはじめとする体育的活動に取り組みました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新体カテスト指標のA、B、Cを達成した児童生徒の割合が小学校で72.5%（令和4年度比+1.4ポイント）となり回復傾向にあったが、中学校で74.4%（令和4年度比-3.7ポイント）となり、体力の低下傾向が見られます。 思い切り運動ができるようになり、「運動が好き」と回答する児童生徒が増えましたが、コロナ禍により制限のかかる活動が3年間続いたため体力は低下傾向にあります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> トップアスリートふれあい事業を実施し、運動好きな児童の育成を図ります。 新体カテストの実施、結果の分析、情報提供を行い、各学校の体力課題の解決が図れるようにします。 児童生徒体力向上推進委員会において、効果的な指導方法の研究を行い、児童生徒が主体的に運動できる授業の推進を図ります。 		

施策 3 自立する力の育成								
指標1	【項目】 将来の夢や目標はあると回答した児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、「将来の夢や目標はある」と回答した児童生徒の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	77.6	—	75.1	75.4	75.0		
	担当課評価							
【担当課】 教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> 進捗はおおむね順調ですが令和5年度の実績値が令和4年度よりも減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 社会体験やキャリア教育講演会等を通じて、引き続き、進路指導・キャリア教育の推進に取り組んでいきます。 							
指標2	【項目】 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査 質問紙調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	94.3	—	94.4	95.4	95.7		
	評価理由							
【担当課】 教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 児童生徒が、社会体験やキャリア教育講演会等を通じて、様々な職業について学ぶとともに、人の役に立つことの喜びを感受できるようにしていきます。 引き続き、児童生徒が主体的に目的意識をもって進路選択を行うことができるよう、特別活動（進路指導・キャリア教育含む）研修会を通して教職員の指導力を高めていきます。 							

施策 3 自立する力の育成		総合評価 B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。</p> <p>特に、指標2の「人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合」については、高い実績値を保っており、児童生徒が人の役に立つことの喜びを感受できるようにするための取組が順調に進んでいます。</p> <p>しかし、指標1の「将来の夢や目標はあると回答した児童生徒の割合」については実績値が減少しました。引き続き、社会体験やキャリア教育、講演会等を通じて、自立する力の育成のための取組を進めます。</p> <p>また、施策の柱のうち、主権者教育、環境教育、消費者教育についても、児童生徒が現代的な社会問題に意欲的に関わっていけるように、総合的な学習の時間を活用するなどして教科横断的に取り組めます。</p>	
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育については、現在の取組だけでは足りないと感じている。どこまでやるのか、何ができるのかという問題はあるが、民主主義社会に生きる者として、政治に係る教育は必要であると考えている。 ・キャリアパスポートに、夢だけでなく自分の強み等も記入できる欄を設けてはどうか。記入しやすい内容が増えることで、パスポートがより身近になり、また、道徳の授業等の他の教育にも活用しやすくなるのではないか。 ・義務教育後の子どもたちについて、関心が薄くなってしまう。教育委員会を超える範囲であることは承知しているが、子どもたちの義務教育後の状況にも関心を持って対応を考えていただきたい。 ・環境教育について、近年SDGs等、環境への取組も変化してきているため、教職員の研修で好事例を発表させる等の取組を実施することで、今後もエコチャレンジスクールの活動を広げていただきたい。 	

【施策】 3 自立する力の育成

【施策の柱】 (1)進路指導・キャリア教育の充実

細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 川越市中学生社会体験事業を実施し、地域の事業所等での体験活動を通して勤労観や職業観を養う機会の充実を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 社会体験事業を令和元年度以来、4年ぶりに再開 20校実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒は、社会（職場）体験をすることで、学校ではできない経験を積み、社会で働くことの厳しさや成し遂げたときの喜びを味わっていました。また、勤労観・職業観について学ぶことができています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施時期と生徒の希望にあった事業所の確保のために、各学校の状況について情報共有していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 進路・キャリア教育を充実するために、令和6年度も社会体験事業を実施します。 		

細 施 策	②小学校・中学校・高等学校の系統的なキャリア教育の充実	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が主体的に、目的意識を持って自分の進路選択ができるよう、発達段階に応じた進路指導・キャリア教育の充実に努めます。 児童生徒が自分自身のキャリア発達を継続的に記録し、「キャリア・パスポート」を作成、蓄積することで、見通しと振り返りを行うことができる機会の充実を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア・パスポート」を作成 54校（市立小中学校全校） 中学卒業後、進学先の高等学校と「キャリア・パスポート」を共有し系統的なキャリア教育を実施 22校（市立中学校全校） 小・中学校教職員を対象にした進路指導・キャリア教育研修会を1回実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において発達段階に応じた進路指導・キャリア教育を実施し、「キャリア・パスポート」の作成及び蓄積を行い、校種間における系統的な接続を行うことができています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キャリア・パスポート」をより活用できる方法の研究が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア・パスポート」を一助として、児童生徒が見通しをもって自分の進路選択に向けて、校種間や学年間での取組の共通理解を充実させるよう校長会等で周知を図ります。 		

【施策】 3 自立する力の育成

【施策の柱】 (2)主体的に社会の形成に参画する力の育成

細 施 策	①主権者教育の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 将来、社会に関心を持ち、よりよい社会の在り方を主体的に考え判断し、社会の中で協調、自立できる児童生徒を育成するため、主権者としての自覚を培う教育の推進を図ります。 児童生徒が社会で起きている事柄に興味・関心を持ち、社会の形成に参画する基礎を培うため、現実の具体的な事象を模擬的に取り上げたり、議論を通して多面的・多角的に考えさせたりできるよう、児童生徒の発達の段階に応じた取組の充実を図ります。 児童生徒に税の意義や役割を正しく理解させるために、地域や関係機関等と連携し、租税に関する教育に取り組んでいきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示された指導内容に基づき、社会科、技術・家庭科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心に各学校で指導 54校（市立小中学校全校） 川越税務署との連携による租税教室の実施（小学校：32校 中学校：17校 特別支援学校：1校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、学習指導要領に示された指導内容を各教科・領域で指導することで、主権者教育を実施しています。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、実施校数が大幅に改善しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に税の意義や役割を正しく理解させるために、地域や関係機関等と連携した主権者教育の実施を進めることが必要です。中学校での実施校増を進めます。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 市内の優れた指導事例等を共有することで、効果的な指導実践を広めていきます。 関係機関等と連携しながら主権者教育及び租税に関する教育の啓発を進めます。 		

細 施 策	②環境教育の推進	担当課	関連指標	
		教育センター	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 未来の環境の保全・創造を担う児童生徒を育成するため、発達段階に応じて関係機関や地域と連携した体験活動の充実を図ることで環境教育を推進します。 環境マネジメントシステムの考え方を取り入れ、環境にやさしい学校づくりに全員で創意工夫しながら取り組む川越市エコチャレンジスクール認定制度を推進します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育研修会 1回 エコチャレンジスクール認定校数 56校（市立学校全校） 			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	エコチャレンジスクール認定校数（校）	56	56	56
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が環境問題解決のため主体的に活動できるよう「市制施行100周年記念事業川越こども環境宣言2022」の趣旨を踏まえた研修を実施しました。 包括連携協定を締結した武州ガス・東京ガスによる学校への出前授業等で、環境教育を推進しています。 エコチャレンジスクール認定事業において、全市立学校を3グループに分け、1年目に実施計画を立案し実施、2年目は実施状況を環境政策課と訪問し認定、3年目は3年間の取組のまとめを行っています。 エコチャレンジスクール認定事業において、優良な取組を行っている学校の報告を研修会等を通して広めています。 毎年1年目の該当校に環境教育研修会を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が主体となって、進んでエコチャレンジスクール認定事業に取り組める工夫が必要です。 各校の取組内容が形骸化してきています。 各校のよい取組を共有することが必要です。 エコチャレンジスクール認定事業をきっかけにして、各校の各教科等を通じた横断的・総合的な環境教育をさらに充実させていく必要があります。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> エコチャレンジスクール認定事業において、令和6年度より各グループのGoogle Classroomを作成し、3年間1サイクルで運用します。 Google Classroomを活用し、各校の取組を共有するとともに、環境に関する最新の情報を教育センターと環境政策課より各校に提供します。 児童生徒が環境問題解決のため主体的に活動できるように改訂したエコチャレンジスクール認定事業の実施要綱及びマニュアルを各校に周知します。 包括連携協定を締結した武州ガス・東京ガスによる学校への出前授業等で、環境教育を推進します。 エコチャレンジスクール認定事業に係る訪問審査において、教科横断的・総合的な環境教育について指導助言を行います。 			

【施策】 3 自立する力の育成

【施策の柱】 (2)主体的に社会の形成に参画する力の育成

細 施 策	③消費者教育の推進	担当課	関連指標
		教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活に関する知識を習得し、将来、適切な意思決定や消費行動ができる自立した消費者として、安心して安全な消費生活を営めるよう、発達段階に応じ、教科や特別活動等あらゆる学校活動を通して消費者教育の推進を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 消費者教育に関連する教育活動 小学校：3～5年生の社会科、5、6年生の家庭科、道徳 32校（市立小学校全校） 中学校：社会科（公民的分野）、技術・家庭科（家庭分野）、道徳 22校（市立中学校全校） 川越税務署との連携による租税教室の実施 （小学校：32校 中学校：17校 特別支援学校：1校） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づいて、主に社会科、家庭科等の教科において、将来、自立した消費者として安心して安全な消費生活を営める児童生徒の育成に努めています。市立小学校の租税教室開催希望は100%となっています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づき、自立した消費者として、児童生徒の身近な消費生活における課題を解決する力を養っていくことが必要です。 租税に関する教育を、地域や関係機関等と連携し進めていきます。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害が低年齢化していることから、児童生徒が、自立した消費者として適切な対応を取ることができるよう、発達段階に応じた消費者教育の充実を図ります。 川越税務署や民間企業等、関係機関と連携しながら主権者教育及び租税に関する教育の啓発を進めます。 		

施策 4 多様なニーズに対応した教育の推進

指標 1	【項目】 特別支援学級設置率				【説明】 市立小・中学校の特別支援学級設置率			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
%	61.1	69.0	77.8	83.3	88.9			100
担当課評価								
【担当課】 教育センター <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・「川越市特別支援教育の推進に関する計画」に基づき、計画的に特別支援学級を設置しています。 ・令和6年度から、小学校は特別支援学級が全校設置となります。 								
指標 2	【項目】 特別支援教育に係る教職員研修達成度				【説明】 特別支援教育に係る管理職等研修会をはじめ、特別支援教育に係る7講座の達成度の平均（5段階評価）			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
—	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3			4.5
担当課評価								
【担当課】 教育センター <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・効率的・効果的に研修を実施するため、研修内容に応じて、対面・集合型研修の他、オンライン研修(同時双方向型・オンデマンド型)を実施しました。 ・研修内容や方法を工夫し、教職員が児童生徒の個別のニーズに対応できる指導力を身につけられるような研修の実施に努めます。 								
指標 3	【項目】 臨時講師（オールマイティー チャー）配置の効果調査において 「向上」と回答した割合				【説明】 臨時講師配置の効果調査において 「向上」と回答した割合			
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
%	64.8	81.2	75.9	80.8	73.1			75
担当課評価								
【担当課】 学校管理課 <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調ですが令和5年度の実績値が令和4年度よりも減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 ・各学校の諸課題を明確にすることにより、諸課題に対し計画的・意図的な対応が図れました。 ・「授業規律」に関しては全ての配置校において「向上した」と回答がありました。 ・学校においては、教員数が増えたことにより、児童生徒・保護者への丁寧な対応が図れました。今後も計画的な配置を進めるとともに、臨時講師の効果的な活用や指導力向上について支援していきます。 								

施策 4 多様なニーズに対応した教育の推進		総合評価 A
総合評価について	<p>全体として進捗は順調であり、評価も良好です。 個に応じた指導や支援を必要とする児童生徒が年々増加していますが、保護者や管理職を含めた教職員が、特別支援教育への理解を深め、特別支援学級の設置を計画的に進めることで、多様なニーズに対応した教育の推進に係る取組が順調に進んでいます。</p> <p>しかし、指標3に係る臨時講師（オールマイティーチャー）配置の効果については、実績値が減少しました。「授業規律」に関しては全ての配置校において「向上した」と回答があり、学校においては、教員数が増えたことにより、児童生徒・保護者への丁寧な対応が図れていることから、今後も計画的な配置を進め、目標達成に向けた取組を進めます。</p>	
学識経験者等 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに対応した教育の推進のために、正規の教職員以外の多様な形態の人材を多数配置していることは評価できるが、配置して終わりではなく、配置した人材の活用の方法も含めて、適切に支援する取組も必要である。 ・課題である人材確保は、人材を探すことと、予算を確保することの2つの視点が必要である。 ・オールマイティーチャーについて、指導力のある教職員を育てることは非常に大変だとは思いますが、人材確保だけでなく、現在の教職員の質の向上も必要である。 ・総合評価について、順調に進捗している旨の記載となっているが、施策全体としては課題がまだまだある。 ・指標になっていないが、川越市においては外国人児童生徒の支援の問題が今後さらに重大な問題になってくる可能性がある。現に、各学級には多くの外国人児童生徒も在籍しているため、次期計画における指標に加えることを検討する等、今後の川越市の教育をデザインしていただきたい。 	

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (1)特別支援教育の充実

細 施 策	①一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの構築を推進し、全ての児童生徒が十分に共に学ぶことや個に応じた指導・支援が受けられるように環境の整備に努めます。 ・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、通級指導教室を活用し、障害に応じた支援の充実を図ります。 ・市立小・中学校に設置している特別支援学級の児童生徒一人ひとりの実態や障害の特性等に応じた指導・支援の充実を図ります。 ・特別支援学級の全校配置に向けて、今後も計画的な配置を進めていきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学級運営支援員配置 38名 ・特別支援教育支援員配置 62名 ・特別支援学級の新設準備 4校（芳野小・川越西小・大東西中・高階西中） ・発達障害・情緒障害通級指導教室担当者への巡回相談 10回（12名） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴・言語障害通級指導教室及び発達障害・情緒障害通級指導教室に通級する児童生徒は、前年度より増加しています。 ・特別支援学級に入級する児童生徒も、年々増加しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させる必要があります。 ・学校の状況に応じた学級運営支援員や特別支援教育支援員の配置が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る研修を一層充実させ、学校全体の特別支援教育に関する理解を深め、教職員の専門性を向上させるとともに、教育的ニーズに応じた支援を行うことができるようにします。 ・各校に在籍する配慮が必要な児童生徒の状況に応じた的確な支援が行えるように、指導・助言を行い、学級運営支援員や特別支援教育支援員の効果的な配置に努めます。 		

細 施 策	②就学支援の充実				担当課	関連指標
					教育センター	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、柔軟に学びの場を選択したり、支援方法を相談したりできるように継続的な就学相談を行い、個に応じた支援に努めます。 ・川越市児童発達支援センターや就学前施設、学校、保護者等と情報を共有し、切れ目のない支援を行います。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談者 366名 ・延べ就学相談実施件数 777件 ・就学支援委員会の意見と就学先が合致した割合 87.1% ・通常の学級、特別支援学級及び特別支援学校の意見が出されたうちで、経過観察が必要となった者 127名（意見と異なる就学をした児童生徒44名を含む） ・就学相談セミナー 3回 					
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	就学支援委員会の意見と就学先が合致した割合（%）	84.9	87.2	87.1		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、就学相談を進めています。 ・就学相談セミナーでは、特別支援学級やそれぞれの特別支援学校等の様々な学びの場の特徴や就学相談の進め方を保護者に丁寧に伝えるとともに、個別に相談に応じています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学児の情報を収集することが困難なケースがあります。 ・就学相談の件数が年々増加していると同時に、児童生徒の教育的ニーズが多様化してきています。 ・就学支援委員会の意見と異なる就学をした児童生徒についても、各学校や各関係機関と密に連携し、引き続き保護者との信頼関係を築きながら、就学相談を進める必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・療育支援課の巡回相談担当と連携し、就学児の情報を得られるようにします。 ・必要に応じて園や学校に観察訪問を実施し、今後の就学相談に活用していきます。 ・保護者や児童生徒の思いを丁寧に聞き取り、児童生徒にとってよりよい支援の場を共に決定できるよう助言をします。 					

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (1)特別支援教育の充実

細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進	担当課	関連指標
		教育センター	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生に「みんななかよく」、中学校1年生に「共に生きる」というパンフレットを活用した授業を行い、教職員、児童生徒の特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・管理職や特別支援教育コーディネーターに対する特別支援教育に係る研修を充実させ、校内でケース会議を開くとともに、組織でよりよい支援の在り方を考え、実践していきます。 ・保護者・地域・関係機関向けのセミナーの開催や特別支援学級授業公開を積極的に行い、より多くの方の特別支援教育の理解と啓発に努めます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市特別支援教育推進委員会による特別支援教育啓発資料「よささがし」を作成 ・川越市教育委員会免許法認定講習（特別支援教育） 6講座12日間 延べ受講者数650名 ・特別支援教育に係る研修 35回 ・発達障害セミナー 18名 ・特別支援学級・特別支援学校授業公開参加者 196名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る研修を多く実施し、教職員の特別支援教育への理解を深められるようにしました。 ・川越市教育委員会免許法認定講習（特別支援教育）を初めて開催し、多くの教職員の特別支援教育の専門性を高めることができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員や児童生徒、市民の特別支援教育への理解をさらに深める必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己肯定感を高めるため、「よささがし」を各学校に配布して周知するとともに、「みんななかよく」「共に生きる」を授業でより効果的に活用できるようにします。 ・川越市教育委員会免許法認定講習（特別支援教育）の積極的な受講を促し、教職員の特別支援教育についての理解を深められるようにします。 ・発達障害セミナーの内容を充実させたり、パンフレット「川越市の特別支援教育」を市内公共施設に置いたりするなどして、市民への特別支援教育の理解・啓発を図ります。 		

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	①多様化する学校課題を解決する事業の推進	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止等、各学校における様々な課題に応じ、オールマイティーチャーを配置し、課題解決を図ります。 ・問題を抱えた児童生徒や保護者が、学校、家庭、地域、関係機関と連携して課題解決を図れるようにするため、スクールソーシャルワーカーの配置を進めています。 ・一人ひとりのニーズに応じた支援の実現のために学級運営支援員や特別支援教育支援員の計画的な配置を進めています。 		
令和5年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オールマイティーチャー配置 13校13名（小学校4校、中学校9校） <p>【教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー配置 7名 ・学級運営支援員配置 38名 ・特別支援教育支援員配置 62名 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導・支援を必要としている児童生徒は、年々増加しています。 ・学級運営支援員、特別支援教育支援員を必要としている学校も増えています。 <p>課題</p> <p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級運営支援員、特別支援教育支援員を必要としている学校から配置要望は増加しています。より多くの学校への配置、そのための人材確保が課題となっています。 ・オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカーのニーズが多様化しており、対応するためにより専門性を高める必要があります。 		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の現状や川越市全体のバランスを考慮し、オールマイティーチャー、スクールソーシャルワーカー、学級運営支援員、特別支援教育支援員の計画的かつ効果的な配置を進めます。 ・多様化するニーズに対応するため、事例検討などの研修を通して専門性を高めます。 		

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	②外国人児童生徒支援の充実			担当課	関連指標
				学校管理課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校に在籍する外国籍児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、語学指導補助員、日本語指導員（中国語）の派遣を推進し、日本語指導や学校生活への適応指導の支援等、個に応じた教育の充実を図ります。 日本語指導を必要とする児童生徒に対して、母国語での支援及び母国語に関わらず支援できる人材の確保を図ります。 関係機関や庁内関係課と連携し、日本語教室等の周知等を図ります。 学習者用コンピュータによる翻訳機能の活用や、来日後の日本語指導体制の研究を進めます。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの要請に基づき語学指導補助員を派遣 日本語指導が必要な児童生徒131名に対し語学指導補助員を派遣 23名 語学指導補助員の派遣回数 1,217回 就学手続きの際における日本語教室等の情報提供 学習者用コンピュータ翻訳機能活用についての学校への助言 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	語学指導補助員派遣回数（回）	972	1,158	1,217	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国籍の児童生徒数は増加しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 語学指導補助員や日本語指導員の派遣を希望する学校は多く、日本語指導が必要な児童生徒が複数おり、語学指導補助員の派遣回数を増やしてほしいという要望も増えているため、各学校への派遣回数を増やすとともに、一人ひとりの支援時間を確保することが課題となっています。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 語学指導補助員の拡充を進めるとともに、配置を工夫するなどして、各学校への語学指導補助員の派遣を進めます。 日本語指導資格を持つ語学指導補助員などの人材確保に努めます。 				

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	③教育機会均等化のための支援			担当課	関連指標
				教育総務課・教育財務課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助が行き渡るよう、引き続き就学援助制度の周知を行うとともに、国や他自治体の動向等を踏まえ、認定基準を含めた適正な制度の在り方について検討を行い、就学援助制度を推進していきます。 ・高等学校、大学等への進学に対する支援は、国及び埼玉県の制度の拡充を考慮した上で、貸付型の育英資金制度の見直しも含め、経済的支援を真に必要な方のための制度設計を行います。 				
令和5年度の主な実績	<p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育英資金新規貸付決定者数 入学準備金 12名 学資金 13名 ・大学奨学金新規支給決定者数 5名 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入学児童生徒学用品費等の実施数 小学校新1年生285名、中学校新1年生396名 ・就学援助認定者数 小学校2,540名、中学校1,409名 ・就学援助の判断基準に関する他市状況の把握 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	就学援助認定者数(名)	4,337	4,183	3,949	
現状・課題	<p>現状</p> <p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国及び埼玉県における高等学校や大学への進学に係る補助制度が充実していく中、育英資金や大学奨学金の申請者数は減少傾向にあります。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学援助の認定者数は減少してきていますが、支給単価は年々上昇しています。 <p>課題</p> <p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学奨学金制度は、篤志家や企業、ふるさと納税など寄附を原資とした川越市大学奨学金基金を財源としています。今後は基金の残高状況を考慮しつつ、国等における高等教育等への支援の動向を見据えながら、制度を運用していく必要があります。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給単価が年々上昇していくなか、制度を維持していくためには、就学援助の定期的な判断基準の見直しを行う必要があります。 				
課題解決のための取組	<p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に大学奨学金制度に理解や関心を寄せていただくため、引き続き、制度の周知を工夫していくとともに、今後の制度運用を検討していきます。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市における状況調査や、基準の見直し後の影響等を考慮し、就学援助の定期的な判断基準の見直しについて引き続き検討を進めます。 				

施策 5 教育の質を高める環境の充実

指標 1	【項目】 研修目標達成度（5段階評価）				【説明】 経験者研修及び専門研修ごとの研修目標達成度の平均（5段階評価）			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	—	4.1	—	4.4	4.5	4.4	—	4.5
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課 教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・「埼玉県 校長及び教員としての資質向上に関する指標」を踏まえ、キャリアステージに応じた資質能力を育成するよう計画に沿って研修を実施しました。 ・今後は、教職員の主体的な学びを支援するため、教職員のニーズに応じた研修内容について検討します。また、働き方改革等の観点から、研修効果を担保した上で、研修のオンライン化（同時双方向型・オンデマンド型）をさらに進めます。 								
指標 2	【項目】 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合				【説明】 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	77.7	77.2	78.2	78.0	73.4	—	30.0
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗はあまり順調ではありません。 ・時間外在校等時間数の削減に向け、各学校では、行事等の精選、日課表の工夫等の取組を行っています。 ・今後は、本市の「学校における働き方改革基本方針」に基づき、保護者や地域の方の理解を得ながら、具体的な改善策を講じていきます。 								
指標 3	【項目】 市立川越高等学校の生徒、保護者の満足度				【説明】 生徒、保護者への学校評価アンケートにおける「入学して（させて）よかった」と回答した割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	85.7	94.9	89.0	89.7	90.8	—	100
担当課評価								
<p>【担当課】 市立川越高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・年度により実績値に変動はありますが、生徒や保護者の意見を聞き、良好な学校運営に努めたことにより実績値は高い状況です。 ・引き続き、目標値を目指して、生徒や保護者の意見を聞き、良好な学校運営に努め、市立川越高等学校の満足度向上を図ります。 								
指標 4	【項目】 市立特別支援学校のセンター的機能を活用した学校の割合				【説明】 各市立小・中・高等学校（小32校、中22校、高1校）が市立特別支援学校のセンター的機能を活用した割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	—	7.2	52.7	49.1	43.6	—	100
担当課評価								
<p>【担当課】 教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗はあまり順調ではありません。 ・センター的機能を活用している学校が限られています。 ・市立特別支援学校からの積極的な情報発信とともに、センター的機能を活用することにより得られる効果等を、各学校に周知していきます。 								

施策 5 教育の質を高める環境の充実		総合評価 B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。 特に指標1の「研修目標達成度（5段階評価）」については、実績値として高い水準を保っており、キャリアステージに応じた資質能力を育成するよう計画に沿って研修を実施することができました。 しかし、指標2の「勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合」については、目標値に対して進捗が順調ではありませんでした。令和4年度に策定した「学校における働き方改革基本方針」に基づき、効率的な働き方を推進しているところですが、引き続き、保護者や地域の方の理解を得ながら具体的な改善策を講じ、教育の質を高める環境の充実のための取組を進めます。</p>	
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間を意識した働き方の推進の検討にあっては、検討に参加する教職員を固定することなく、幅広い意見が出るように工夫する必要がある。また、出た意見を迅速に活かすことのできる体制も考えていかなければならない。 ・教職員の勤務時間について、仕事量が多いことが勤務時間に影響していると感じている。働き方改革だけに焦点を当てて施策を進めるのではなく、県に働きかけながら職員を増やすという取組も考えることが必要である。 ・事務負担軽減にあっては、地域の人材を活用していくことも必要だと考える。地域も含め、みんなでこどもを育てていくという環境づくりが必要である。 ・部活動の地域連携は、大学としても貢献できる部分であると考えている。部活動に関心を持つ学生も多いため、積極的な活用を検討していただきたい。 ・市立川越高等学校の進路指導力向上について、今後は受験の方法も多様化し、生徒一人ひとりに合わせた指導が必要となる。教職員の負担も考慮した対応の工夫が求められる。 ・現在、特別支援学校のセンター的機能を活用する学校が限られてしまっているとのことだが、こどものことについての不安を、専門的な視点で助言してもらいたいと感じている現場の先生や保護者は多いため、工夫しながらさらに活用についての周知をしていただきたい。 	

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	①教職員研修の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じ、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修や管理職研修などを核とした経験者研修の充実を図ります。 ・学習指導要領への対応や様々な教育課題に対応するため、教員の専門的スキルを高め、授業改善につながる専門研修の充実を図ります。 ・教育者としての使命感、責任感を持ち、指導力のある意欲的な教員を育成するための研修を充実させるとともに、勤務規律を守り、倫理観の向上を図るための研修を実施します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・経験者研修 11講座 504名 専門研修 21講座 285名 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、川越授業スタンダードを活用した授業づくりに関する研修の実施（全経験者研修） ・特別支援学校教諭2種免許状に必要な単位を取得可能にするため、「免許法認定講習（特別支援教育）」を新たに開設 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の「校長及び教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教職員のキャリアステージに応じた研修内容を計画、実施することにより、おおむね順調に進捗しています。 ・「ふるさと学習推進研修会」において、児童生徒のふるさと川越への愛着・誇り等を育成する学習の推進を行っています。また、全教職員を対象としたICTに関する研修を実施し、ICT活用指導力の向上を図っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の喫緊の教育課題の解決に向けた研修を、引き続き実施する必要があります。 ・教職員が各自のキャリアステージにおいて求められる資質能力を身に付けられるように、研修内容をさらに工夫する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の課題である学力向上、ICT活用、ふるさと学習を最重点として、研修を実施します。 ・各教職員が必要な学びを主体的に行い、資質向上を図ることができるようにするため、教職員のニーズを把握し、研修計画に反映させ、実施します。 		

細 施 策	②中堅教職員・臨時的任用教員の育成	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・若手・中堅教職員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図り、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。 ・臨時的任用教員研修において、教職員の資質向上に関する指標を基とした研修を経験年数に合わせて計画し、臨時的任用教員の授業力を育成します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教諭等資質向上研修 全7回 55名 ・臨時的任用教員研修 8回（①全員参加 3回、②経験年数1～2年目及び希望者のみ参加 5回）194名（内②は64名） ・かわごえミドルリーダー研修 全9回 参加者（小・中）7名 研修評価達成度平均（5段階評価）4.9 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中堅教職員に対しては、学年組織マネジメントや人事評価制度等、学校の中核を担う人材を育成する研修を実施しました。研修参加者について、教務主任・学年主任等のミドルリーダーを担う者が増加しています。 ・臨時的任用教員に対しては、全員参加の研修が3回、経験年数1～2年目及び希望者のみ参加の研修が5回あります。研修内容については、県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」に基づき、教員としての使命感を高め、実践的な指導力を養う研修を実施しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任や教務主任等の若年化を踏まえて、中堅教職員が学校運営の推進者となれるよう研修内容を工夫し、より主体的に研修に参加できるよう改善していく必要があります。 ・2月の臨時的任用教員研修で実施した「家庭との連携の在り方」「学年・校務分掌等における組織の一員としての在り方」などの研修内容については、すぐに教育実践に生かせるようにするため、研修の実施時期など研修計画を見直していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教職員は、県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」の深化・中核期に該当することを踏まえて、研修の指導者に実践経験豊富な講師や大学教授等を選定し、より質の高い研修となるようにします。また、「川越市教職員キャリアアップデザインシート」を活用し、管理職との対話を通して、中堅教職員が主体的に自身の資質向上に取り組めるようにしていきます。 ・臨時的任用教員研修では従来の対面・集合型研修、オンライン研修（同時双方向型）に加えて、オンライン研修（オンデマンド型）を新たに取り入れ、臨時的任用教員が必要なときにいつでも研修動画を見られるようにしていきます。また、研修内容をすぐに実践に生かせるようにするためにすべての研修を10月までに実施します。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	③教職員研修の効果的な実施	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の負担軽減及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面型・オンライン型の研修方法により、研修内容に適した時期で研修を実施します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対面・集合型研修 156回（全研修の66%） ・オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型） 79回（全研修の33%） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、各研修において感染対策を理由とした、研修形態等の変更措置を取る必要がなくなりました。 ・対面集合型研修、オンライン研修の全研修数に対する割合は、令和4年度と同程度です。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の負担軽減の観点から研修の在り方や内容について検討する必要があります。 ・オンライン研修（特にオンデマンド型）における、研修効果をより高めるための研修内容、研修方法について検討する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修（希望して受講する研修）の数を増やすことで、教職員が自身のキャリアアップに適した研修を選択して受講できるようにします。 ・教職員の負担軽減のため、情報伝達が主な内容である研修はオンライン研修オンデマンド型にするなど、オンライン研修の割合を増加させます。 ・経験者研修における各種提出物等を削除することで、教職員の負担軽減を進めます。 ・オンデマンド型研修参加者の振り返り等を基に、研修内容や研修方法について改善を図り、より充実した研修を実施します。 		

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	①勤務時間を意識した働き方の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方について見直す機会となるよう、在校時間記録システムにより把握したデータを定期的に学校へ提供し、管理職を含めた教職員の意識改革を図ります。 ・「ふれあいデー」の設定を推進します。 ・保護者や地域に対して、学校における働き方改革に関する取組を理解してもらうよう周知します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間記録システム更新により、教職員が月の途中でも時間外在校等時間を把握できる形式に変更 ・在校時間等の客観的なデータを参考にした各学校における取組（日課表の工夫、行事の精選、ノー残業デー等の取組等） ・市立学校全校での「ふれあいデー」の設定 ・学校現場の教職員が参加する負担軽減検討委員会を2回開催 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会において、在校時間記録システムによる職員の勤務状況把握、状況に応じた教職員への働きかけについて周知しています。その結果、教員の意識も高まり、効率的な働き方を各学校で工夫し、月80時間超の教員は減少傾向にあります。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に長時間勤務は改善傾向にあるが、各学校において在校時間が長い教職員が一定数います。特に、中学校の教職員は、週休日の部活動への従事時間が大きく影響している現状があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会等において、在校時間記録システムの具体的な活用方法を周知します。 ・学校における働き方改革に関する取組について、市ホームページや各学校の学校運営協議会等で、保護者や地域の方の理解が得られるよう、周知に努めます。 ・本市における「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働き方改革を進めます。 ・部活動においては、外部指導員を活用した指導体制を整えていきます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	②事務負担軽減への取組	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムを活用するなど、国や県、市で求める調査報告について効率化を図れるよう検討を進めます。 ・学校と教育委員会とが負担軽減についてともに研究する場をつくり、働き方改革を推進します。 ・学習指導案や教材等を関係者で共有し、教員の教材づくり等の授業準備に掛ける時間を削減し、事務の効率化を図ります。 ・教育委員会からの調査・照会業務の適正化（縮減）を行い、事務負担の軽減を図ります。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、専門性を持つ多様な職員と教員が協働し、「チーム学校」としての組織体制強化を図ることで、教員一人ひとりの負担軽減を図ります。 ・部活動の意義や発達段階を踏まえた指導が行えるよう、外部指導者の活用を含めた地域と連携した活動を推進し、部活動顧問の負担軽減と持続可能な運営体制の構築に努めます。 		
令和5年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムを活用した学校からの提出物の削減を実施 ・グループウェアを活用した調査等の回答方法の簡素化（回覧レポートやアンケート機能の積極的な活用） ・市立中学校において、部活動指導を補助する地域人材登録 19校90名 ・市立川越高等学校において、部活動外部指導者導入事業による外部指導者 4名 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校部活動指導員配置 6校8名 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムやグループウェアを活用して、調査の簡素化、提出物の削減を図ることができました。更なる事務の効率化に向けて、研究を進めていくことができました。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性が必要な部活動において、指導準備の助言等を受けることで、部活動顧問の負担軽減が図られています。 ・市立中学校において、始業前の活動（朝練習）を原則行わないようにし、部活動顧問の負担軽減が図られています。 <p>課題</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムやグループウェアについて、一部の職員における活用だけではなく、より多くの職員が活用できるようにする必要があります。また、更なる事務の効率化のための方策を検討する必要があります。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の意義を理解し、適切に指導をすることができる人材及び報酬に係る財源の確保が必要です。 ・多感な時期の中学生を指導するため、外部指導者と学校との連携の在り方の整理が必要です。 		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアを活用した事務の簡素化に向けた方法を、教育委員会内に広めていきます。 ・統合型校務支援システムを活用して、不登校及び不登校傾向と思われる児童生徒調査等、学校の事務負担軽減につながる取組を広げていきます。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県の動向を確認しながら、部活動指導員を含めた外部指導員を活用した指導体制を整えるとともに、予算措置等についても国や県に働きかけていきます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	③悩みを抱える教職員のための支援体制づくり	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックを実施し、高ストレス者が産業医と面談できる体制を整えます。 ・ストレス状況を把握できるよう、セルフチェックシステムの活用を推進します。 ・様々な問題、課題に対して、教職員一人で悩み、問題を抱え込むことのないよう、気軽に相談できる支援体制を構築します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医との面談日を1日設定（面談実施者 4名） ・ストレスチェック実施対象者1,549名、実施者1,355名（87%） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業医との面接希望者に対し、面接の場を設定し実施することができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックは本人の希望により実施するものですが、自身のストレス状況を把握できるよう、更に実施率を高める必要があります。学校においては、相談しやすい体制を構築していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックを実施し、産業医との面接を希望する者に対して、面接の場を設定・充実させていきます。 ・ストレスチェックの実施率が高まるように、対象職員への働きかけを校長に促します。 ・校長会等で、相談しやすい相談体制を構築するよう周知します。 		

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・オレゴン州にあるノース・セーレム高校との国際交流を通じて、グローバル化に対応したコミュニケーション力を身に付け、川越や日本のことをきちんと伝えることのできる国際人を育てます。 ・本市唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、創立100周年に向けて、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めます。 ・一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力・技能等を培い、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力を育みます。 ・普通科と商業に関する学科（情報処理科・国際経済科）の3学科併置校としての特色を生かした教育活動の充実を図ります。 ・これまでの取組を継続し、部活動の活躍を通して学校の魅力を一層高めめます。 ・多様な学びの機会を創造するため、市内4大学及び女子栄養大学との連携、地元企業や関係機関との連携を推進します。 ・市立川越高等学校のホームページをより充実させ、教育活動の内容や成果に関して適時に適切な情報を発信します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科（普通科・情報処理科・国際経済科）35人の少人数学級編成を維持 ・普通科の生徒の大学・短大・専門学校等への進学率 91% ・情報処理科、国際経済科は全商検定3種目以上1級合格者 50名 ・部活動の充実を図るための部活動外部指導者を導入 4名計800時間 ・生徒の個別支援に対するスクールカウンセラーを配置 9回 ・学校改革を進めるため川越市立川越高等学校教育審議会を 2回開催 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日時点の県内中学校3年生対象進路希望状況調査で、市立川越高等学校普通科を希望する倍率は3.79倍（県内1位）となりました。 ・全商検定や日商検定の取得者が県内の商業系高校の中でトップクラスの実績を収めました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校改革を進めるために積極的に本市の教育に参画しようとする人材を確保し、教科指導、進路指導、生徒指導など質の高い教育を実践することが課題です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教育審議会の意見を参考に、公募により採用した校長の高いリーダーシップのもと、一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力や技能等を培う実学教育を重視し、将来、職業を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指し、生徒の社会的自立を促していきます。 		

- 【施策】 5 教育の質を高める環境の充実
 【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	②進路指導力向上のための教職員研修の充実	担当課	関連指標
		学校管理課・市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0時代に対応した教育を実施するため、全ての教員がICTを適切に活用できることを目指します。 ・ 教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に参加させ、その成果を校内に普及させることで大学等への進学指導力の向上を目指します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立高等学校教員進学指導力向上研修を活用した、民間教育機関の研修を受講 2名 ・ 教員を対象にGoogle for Education研修、iPad利活用研修等を実施 4回 ・ 探究活動等、生徒が主体的に学べるように1学年全生徒がタブレット端末を所持 280台 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型選抜を活用する生徒が多く、一般選抜で受験する生徒は少ない状況です。(法政大、明治学院大、獨協大、武蔵大、日本大、東洋大、駒澤大、専修大等) <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般選抜に向けての対策と多様化する選抜方法への対応が求められます。 ・ ICTを活用した情報収集とその活用方法について、教職員のスキルに差があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人ひとりに合わせた指導として進学補習、面接指導、小論文指導等を実施します。 ・ 教員がICTを適切に活用できるよう、引き続き研修等を実施します。 		

細 施 策	③中学校・市立川越高等学校連携の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立川越高等学校の取組を市立中学校に広く周知するために、引き続き研究委嘱校を設定し、支援していきます。 ・ 商業に関する学科との連携など、市立川越高等学校の特色を生かした連携方法について、研究していきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校にて生徒会の生徒による高校生活紹介（オンライン参加を含む）（川越第一中、高階中、高階西中、大東西中、霞ヶ関中、川越西中、鯨井中） ・ 管理職が中学校へ訪問する進路ガイダンス（城南中（中3保護者対象）、霞ヶ関西中（中2生徒対象）） ・ 管理職が中学校へ訪問する学校説明会（福原中（中3生徒保護者対象）） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な形態により市内中学校10校との校種間連携を行いました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立川越高等学校の取組を広く周知するため、希望する多くの中学校との校種間連携を進めることが重要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に中高連携の計画を周知することにより、中学校側が連携の趣旨を理解した上で申し込むことができるようにし、希望する多くの中学生にとって有益な取組となるように校種間連携を進めます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実
 【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備面からも教育力の維持向上を目指し、より安全で快適な教育環境を整備するため、計画的に改修を進めます。 情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT環境を一層整備していきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 地歴準備室等空調設備改修工事 校舎D棟外壁等改修工事設計業務委託 エレベーター改修工事(R5～R6債務負担行為) 視聴覚室音響設備修繕工事 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川越市立川越高等学校大規模改修方針」に基づき、また、創立100周年に向けて学校運営に大きな影響がないように計画的に改修工事を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営に影響がないように改修工事を行うことが課題です。 情報処理実習室等で使用している端末の更新及び、ネットワークの環境整備が課題です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に支障が生じないよう計画的に改修工事を行います。 授業等、学校運営に支障が出ないように、適正な機器更新及びネットワークの環境整備を進めます。 		

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	①市立特別支援学校の整備・充実	担当課	関連指標	
		市立特別支援学校	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市立特別支援学校の教育活動が円滑に進められるようにするために、教育環境の整備・充実に向けた支援体制の充実を図ります。 卒業後「ひとりだちする生徒」を目指し、基礎的な知識、理解の定着を図るとともに、個人及びグループで適切に作業に取り組める能力の育成を図ります。 生徒一人ひとりに応じた進路指導、援助を計画的、組織的、継続的に推進します。 卒業後の職場定着のために、卒業後3年間支援します。 ICT機器に触れ、活用する力を育成します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 教科別の指導「国語」「数学」の習熟度別授業の実施 産業現場等における実習（現場実習）、「職業」の計画的な実施 卒業生アフターフォローの実施 55件（企業訪問 47件・電話相談 8件） 教育活動に合わせた学習者用コンピュータの活用 ※年間を通して8割程度の活用（主に理科・進路・道徳・外国語など） 			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	保護者アンケートで「入学させてよかった」「入学させてよかった」と答えた割合（％）	97.7	95.8	100
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や実習、卒業生へのアプローチについては例年通りに実施しています。 ICTを活用した授業について学校研究として取り組み、教職員の指導スキルを向上させるよう努めています。 卒業後社会の一員となるために、必要なスキルについて体験を通して学び、生きる力の育成（SST週間・自立活動）を図っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別や少人数での指導など、生徒の実態や状況に合わせて指導形態を変えているが教室が少ない状況です。 学習者用コンピュータのさらなる活用を深める必要があります。 学習者用コンピュータの教職員用の端末については、学年2台であるため、活用が活発になればなるほど、教材研究等に支障が出てきています。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 黒板や教室の大きさなどに課題があるものの、特別教室を普通教室の代わりに利用していきます。 教員間で効果的な端末利用を工夫するとともに、引き続き端末の台数を増やすことも検討します。 			

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の充実を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター及び教頭による学校訪問での教育相談等 38件 夏季休業中及び年度末の市立特別支援学校職員による中学校訪問 22校(市立中学校全校) 特別支援教育コーディネーター及び管理職が、市の研修会で講師として講義・演習を実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立小・中・高等学校に対して、特別支援教育の理解、校内環境の整備と学習・生活上の配慮、教材・教具等の作成活用等についてアドバイスを行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> センター的機能を活用している学校が限られています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 教職員向け研修会や校長会等を通じて、市立小・中・高等学校へセンター機能の積極的な活用を促していきます。 市立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが、センター的機能の充実に専念できるようにします。 		

施策 6 学びを支える教育環境の整備・充実

重点施策

指標1	【項目】 大規模改造工事進捗率			【説明】 市立小・中学校の大規模改造工事の進捗率				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	68.6	69.0	69.9	74.9	76.2		100
担当課評価								
【担当課】 教育財務課 <ul style="list-style-type: none"> 進捗はおおむね順調です。 コロナ禍等の影響により、工事の一部を取りやめていた期間があるため、当初の目標達成時期に遅れが生じています。また、令和2年に川越市個別施設計画（公共施設編）が定められたことにより、更新の検討対象となった学校があることから、計画見直しの検討が必要です。 								
指標2	【項目】 トイレ改修工事進捗率			【説明】 市立小・中学校のトイレ改修工事の進捗率				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	32.5	35.0	38.0	39.3	39.3		50.0
担当課評価								
【担当課】 教育財務課 <ul style="list-style-type: none"> 進捗はおおむね順調です。 令和4年度で全ての学校における1系統目のトイレ改修工事が完了しました。 令和5年度は2系統目以降のトイレ改修の方針を定め、小学校1校、中学校1校の設計業務を行いました。 								
指標3	【項目】 小学校における学校図書館図書標準達成率			【説明】 各市立小学校における学校図書館図書標準の平均の達成率				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	92.5	93.8	93.4	93.7	94.6		100
担当課評価								
【担当課】 教育指導課 <ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 令和4年度の実績値より学校図書館図書標準達成率が上昇しています。今後は、廃棄数の上限をなしとしたことで、各学校における蔵書の充実を図り、より魅力的な図書館づくりを進めます。 川越市小・中学生読書推進事業に、市立図書館から学校への図書貸出を位置付け、学校図書館の図書の補完に努めます。 								
指標4	【項目】 給食がおいしいと感じている児童生徒の割合			【説明】 市立小学校6年生及び市立中学校3年生のうち、給食がおいしいと感じている児童生徒の割合				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	—	—	84.2	85.5	86.7		100
担当課評価								
【担当課】 学校給食課 <ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 令和5年度3学期に小学校6年生・中学校3年生の約1,200名を対象としたアンケートを実施した結果、回答者の8割以上が「おいしかった」と回答しています。（回答者865名のうち、750名が「とてもおいしかった」「おいしかった」と回答） 								

施策 6 学びを支える教育環境の整備・充実								
指標5	【項目】 放課後児童支援員の資格を有する職員の割合				【説明】 市立学童保育室で、放課後児童支援員の資格を有している職員の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	68.7	78.2	80.3	87.4	88.8		90.0
担当課評価								
【担当課】 教育財務課 <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・放課後児童支援員の基礎資格を有している者が速やかに認定資格研修の受講ができるよう、計画的に受講枠を確保し、有資格者数の割合を増やすことができました。 ・今後も、引き続き放課後児童支援員の資格取得率の向上に取り組めます。 								

施策 6 学びを支える教育環境の整備・充実		総合評価
		A
総合評価について	<p>全体として進捗は順調であり、評価も良好です。 施設や設備については、「川越市小中学校施設整備計画」に沿って計画的に改修及び修繕を進めています。 しかし、依然として老朽化への対応や社会状況の変化への対応を課題として捉えている施策が多くあるため、計画の見直しを検討しながら今後も取組を進めます。 併せて、児童生徒の安全や安心の確保に係る取組についても引き続き進めることで、学びを支える教育環境の整備・充実を図ります。</p>	

学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事やトイレの改修工事については、現在は順調に進捗しているが、昨今の資材単価の高騰や適正配置の問題とも関連して議論する必要がある。また、教職員の養成についても、ベテラン教職員と若手教職員の間の中堅教職員がいなくなると、優れた教職員を育てるのが難しくなってしまう。このようにハードウェア、ソフトウェアのいずれの視点でも、今後5年間、10年間でどこまで何をするのかという立体的な視野を持つ必要があると考えている。 ・学校図書館の充実については、新しい図書への入れ替えをより迅速に行うことで、学校における蔵書の充実を図り、より魅力的な図書館づくりをしていただきたい。 ・給食内容の充実については、給食センターの職員が、直接、子どもたちに伝えることで、社会科も含んだ学びの機会を提供できると考えるため、例えば、家庭科の実習との連携なども進めていただきたい。 ・学童保育室の利用児童数について、全児童に占める割合が20%というのは、とても高い比率であり、これにより重大事故や重大事件の起こる可能性もとても高くなってしまうと考えるため、今後もスペースや人的な確保を十分にしていきたい。
----------	---

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (1)学校施設の整備・充実

細 施 策	①小・中学校施設大規模改造工事の推進	担当課	関連指標
		教育財務課	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 「川越市小中学校施設整備計画」に沿って計画的に外壁改修や屋上防水の大規模改造工事を推進します。 「川越市小中学校施設整備計画」に沿って計画的に便器の洋式化や配管改修などのトイレ改修を推進します。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標2</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改造工事 【設計】小学校1校、中学校1校 【工事】小学校1校、中学校1校 トイレ改修 【設計】小学校1校、中学校1校 【工事】実績なし <p>※令和5年度より、2系統目以降のトイレ改修工事の設計を行っています。</p>		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改造工事については、進捗が当初の見込みより遅れています。トイレ改修については、令和5年度より2系統目以降の工事設計業務を進めています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改造工事が当初の計画より遅れている事が課題であるほか、更新の検討対象となった学校もあることから、計画の見直しについても課題となっています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改造工事の進め方については、学校更新の検討と並行して検討を進め、計画の見直しを進めていきます。 		

細 施 策	②小・中学校重要設備の更新	担当課	関連指標	
		教育財務課	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 「川越市小中学校施設整備計画」に沿って計画的に耐用年数を経過した受変電設備等の重要設備を更新します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 受変電設備改修工事 【設計】実績なし 【工事】小学校1校、中学校1校 受水槽設備改修工事 【設計】実績なし 【工事】実績なし エレベーター改修工事 【設計】実績なし 【工事】中学校1校（令和5～6年の債務負担行為で実施） 			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	受変電設備（校） 受水槽設備（校）	受変電 2 校 受水槽 2 校	受変電 3 校 受水槽 1 校	受変電 2 校 受水槽 1 校
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要設備（受変電、受水槽、エレベーターなど）は使用年数に応じた老朽化が進行しています。 世界情勢の影響により、物流が不安定となっており、資材調達の遅延などが懸念されます。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な資材調達が課題となっており、特に電気関連（受変電、エレベーター関係）の資材については年度内の資材調達が課題となっています。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 資材調達の情報に注視するとともに、電気関連の資材が安定供給されるまでは、受水槽改修工事を先行することや、受変電設備工事については、十分な工期確保に努め、エレベーター改修工事では工期を2カ年に設定するなどの対応を行います。 			

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (1)学校施設の整備・充実

細 施 策	③小・中学校空調設備設置の推進			担当課	関連指標
				教育財務課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室への空調設備の導入を推進します。また、屋内運動場への空調設備については、防災上の観点を含め様々な導入手法について検討します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室空調設備設置推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 【設計】中学校4校 【工事】中学校4校 体育館空調設備等整備事業（第1期）R5.6～R6.10 継続事業 <ul style="list-style-type: none"> 【設計】小学校7校、中学校11校 【工事】小学校7校、中学校11校 体育館空調設備等整備事業（第2期）R6.3～R7.6 継続事業 <ul style="list-style-type: none"> 【設計】小学校7校、中学校11校 【工事】実績なし 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	特別教室空調設備設置校数（校）	—	2	4	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱中症対策として、早期に全学校特別教室の空調設備設置が望まれます。 令和5年度から令和7年度の3カ年で、屋内運動場への空調設備を設置します。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校特別教室への空調設備設置が課題となっており、他の事業との調整等により、計画的な整備を進める必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助や有利な地方債を活用することで財源の確保に努めるとともに、学校運営に支障をきたさない工期の設定等により、計画的な整備に努めます。 				

細 施 策	④学校図書館の充実			担当課	関連指標
				中央図書館・教育指導課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の読書活動を推進するため、蔵書数を含めた魅力ある学校図書館の充実を図ります。 児童生徒の調べ学習及び読書活動推進等に向け、市立図書館から学校への図書貸出を推進します。 				
令和5年度の主な実績	<p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館から学校へ貸出した団体貸出図書数 <ul style="list-style-type: none"> 小学校4,644冊、中学校635冊、高校229冊 小学校3年生に対し、学級訪問及び学級招待を実施（32校、92学級、2,829名参加） 小学校1年生に対し、学級訪問を実施（10校、30学級、875名参加） <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館図書標準 小学校 94.6%（前年度比0.9ポイント増） 学校図書館図書標準 中学校 105.6%（前年度と同数） 学校司書研修会の実施（年3回） 				
現状・課題	<p>現状</p> <p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校への団体貸出を行い、読書活動を推進しています。 学級訪問及び学級招待を実施し、読書活動を推進しています。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書研修会を行うことで学校図書館の充実を図っています。 中学校においては、学校図書の計画的購入・廃棄により学校図書館図書標準を上回っています。 <p>課題</p> <p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づき、こどもが本に親しむための機会を幅広く提供する必要があります。 団体貸出図書数は前年度と比較して増加しましたが、教育課程に沿った資料選定や定期的な働きかけなど、学校図書館を補う役割を担う必要があります。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、学校図書館図書標準を下回っています。 市立図書館から学校への図書貸出を推進することが必要です。 				
課題解決のための取組	<p>【中央図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づくこどもの読書活動を推進するため、学習指導要領に基づく教育課程に対応する図書等の購入に努めるとともに、利用が少ない中学校に向けた団体貸出の周知に努めます。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館と市立学校との連携を推進し、図書館の図書の補完に努めます。 				

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (2)小・中学校の適正規模・適正配置

細 施 策	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討			担当課	関連指標
				学校管理課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが社会で自立できる力を身に付けることを目標に、切磋琢磨して成長できる川越市立小・中学校の在り方を検討し、新たな教育環境を整えます。 川越市立小・中学校の適正規模・適正配置について、保護者や地域住民等の意向を把握した上で、児童生徒数の推移、及び、小学校での35人以下学級編制に基づく各学校における学級数を踏まえて基本となる方針を策定します。 策定した基本方針を基に、学校の分離・新設や統廃合等の可能性について、地域社会の意見等を踏まえて協議します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 将来人口推計に基づいた、必要な学校数の検討 検討委員会 4回（5月、8月、11月、2月）実施 学校の規模、通学区域、学校の統合等、課題や問題点等を調査研究するための検討部会を4回開催 川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例の制定 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	検討委員会の実施回数（回）	4	4	4	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では35人の少人数学級編制を令和7年度まで順次進めることになっています。また、特別支援学級の新増設や少人数指導教室としての利用等により余剰教室の効果的活用が進む一方で、空き教室となっている学校もあります。学年の単学級化の進展が見込まれる学校もあります。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の統合の議論は、地域の実情や人口動態、施設維持のコスト、教育的効果、防災、市全体の施設計画など、複合的な課題があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 10～30年後を見据えて、本庁及び各市民センター管内の地区ごとに調査・研究を進め、関係課との検討に取り組みます。 令和6年度より、川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会を設置し、「川越市立小中学校の在り方検討委員会」で検討してきた内容を諮問事項とし、審議会において調査審議いただき、客観的な評価として得た答申を踏まえ、教育委員会としての基本となる方針を策定します。 				

【施策の柱】 (3)学校給食の充実

細 施 策	①給食内容の充実			担当課	関連指標
				学校給食課	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、栄養のバランスが取れた給食を提供します。 学校給食で使用する食材の安全確保に努めます。 地場産物の積極的な使用に努めます。 食物アレルギー対応食について、安全で確実な実施体制を保持し、内容の拡充を図ります。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食の提供 小学校189回 中学校190回 学校給食食材（青果）に占める地場農産物の割合 25.2%（重量比） アレルギー対応食の提供 児童84名、生徒12名（R5.5.1時点） 				
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ等により、急な学級閉鎖がありましたが、適切に対応を図りました。 学校給食食材の高騰対策については、補正予算等の対応により、保護者負担を軽減しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 物価高騰等に伴い、学校給食食材の高騰が懸念されている中で、給食献立の工夫などを行うとともに、栄養価を踏まえた質と量が確保されたおいしい給食の提供が必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 地場産物を活用した新メニューを引き続き提供するなど、伝統的な食文化についての理解や地場産物への興味を深めるとともに、食材価格の動向に注視し、献立作成に取り組めます。 				

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (3)学校給食の充実

細 施 策	②学校給食施設の整備			担当課	関連指標
				学校給食課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の改修と設備の修繕等を計画的に推進していきます。 今成学校給食センターは、運営の手法も含め、計画的な建替え等を検討していきます。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備の修繕等の件数 86件（菅間67件、今成19件） 令和5年度から川越市立菅間学校給食センターボイラ更新工事を実施 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	施設や設備の修繕等の件数（件）	106	141	86	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 経年による突発的な修繕等が増加傾向にあるため、継続的な保守点検を行うとともに、計画的な施設設備の整備を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に学校給食を提供するため、施設や設備の状況を的確に把握する必要があります。 施設や設備の老朽化や今後の児童生徒数の推移、市の財政状況等を踏まえ、3つの学校給食センターの機能を総合的に勘案し、今後の方向性を検討する必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、安全で安心なおいしい学校給食の提供に努めます。 関係課会議で3つの学校給食センターの今後の方向性について検討するとともに、現状把握と今後の改修費用の精査を行います。 				

【施策の柱】 (4)子どもたちの安全・安心の確保

細 施 策	①安全教育の推進			担当課	関連指標
				教育指導課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒、地域の実態に応じた安全教育を保護者・関係機関と連携し推進します。 児童生徒の安全確保のため通学路安全点検の実施、スクールガード・リーダーの配置等、地域及び関係機関等と連携・協働し、安全・安心の取組を推進します。 各学校で児童生徒を対象に、不審者に遭遇した場合の対応等、実践的な防犯教室を実施し、防犯意識の育成を図ります。 児童生徒を対象とした交通安全教室を関係機関と連携し推進します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> スクールガード・リーダー年間活動平均回数 220回 児童生徒の登下校の見守りのために青色回転パトロールカーによる巡回 55回 各学校からの通学路改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に対応を依頼 37件 交通安全教育や防犯教育の実施 54校（市立小中学校全校） こどもの見守り講習会実施参加者数 82名参加 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	スクールガード・リーダーの平均年間活動回数（回）	256	219	220	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教育や防犯教育を実施し、安全教育の推進が図られています。 関係機関と連携を図り、通学路の整備が進められています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の実態に応じて作成されている危機管理マニュアルの見直しが必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の交通事故が発生しないように、交通安全指導を継続的に行います。 各学校で、実践的な交通安全教室、防犯教室を実施していきます。 				

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (4)子どもたちの安全・安心の確保

細 施 策	②防災教育の推進			担当課	関連指標
				教育指導課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災等を想定した避難訓練を各学校の年間指導計画に位置付け、児童生徒の防災意識を高め、発達段階に応じて自ら危険を回避する能力の育成を図ります。 各学校において、防災マニュアルを検証し改善するとともに、それらを的確に活用できるよう教職員の安全意識及び災害対応能力の向上を図り、日頃から児童生徒の命を守る防災体制の強化を図ります。 各学校の地域実態等を踏まえた、避難所運営・設営に係るマニュアルを作成し、地域と連携した災害対応体制の構築を推進します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の防災意識を高めるための避難訓練の実施 56校（市立学校全校） 地震や火災、水害等を想定した避難訓練の実施による防災マニュアルの改善 56校（市立学校全校） 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	防災マニュアルの改善実施校数（校）	56	56	56	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域全体での安全教育を実践している学区において、地域全体での安全体制の構築が図れています。 避難訓練等の実施が、児童生徒の防災意識を高めることにつながっています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域全体での安全教育に関わる実践事例を、全市立学校にさらに周知する必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、研修会等で、地域全体での安全教育に関わる実践事例を周知し、児童生徒の防災意識のさらなる向上を図ります。 				

細 施 策	③学童保育の充実			担当課	関連指標
				教育財務課	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 就労等により保護者が常時留守になっている児童の放課後等の安全・安心を確保し、健全な育成を図ります。 放課後児童支援員及び補助員の確保及び質の向上を図ります。 学童保育室の整備、改修等を行い、保育環境の改善を図ります。 民間放課後児童クラブを所管する関係課と連携し、多様化する保育ニーズに対応するための保育手法や負担の在り方について検討します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の学童保育室利用児童数 3,505名（全児童に占める割合：約20%、待機児童：0名） 狭あい化対応 拡張 1室、増室 1室 空調設備設置・改修工事 7箇所 トイレ改修工事 2箇所 正規職員採用数 5名 放課後児童支援員認定資格研修の受講者数 19名 				
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 待機児童を出さずに対応できているという面では、おおむね順調に進捗していますが、入室児童数が年々増加しています。 約3分の2の施設が建築から20年以上経過しています。また、35人学級の実施や特別支援学級の増加に伴い転用可能な教室が減少しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育スペース及び放課後児童支援員等の確保について課題があります。 老朽化が著しい施設の改修等を行い保育環境を維持・改善する必要があります。 放課後児童支援員等の質及び意識の更なる向上が必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 狭あい化、老朽化した学童保育室について川越市総合計画実施計画に位置付け、余裕教室の転用、設備の改修等を行っています。 引き続き幅広い方法で放課後児童支援員等の募集を実施し、その確保に努めるとともに、研修受講機会の確保や、業務のマニュアル化等により、職員の質及び意識の更なる向上に努めます。 民間放課後児童クラブの所管課（こども育成課）と情報交換を密に行い、連携を図ります。 				

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (5)教育センターの充実

細 施 策	①教育センター施設の整備・開放の充実			担当課	関連指標
				教育センター	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター、教育センター第一分室、教育センター第二分室の老朽化した部分等の緊急性や必要性を検討し、施設の改修と設備の修繕等を計画的に実施します。 ・教育センターは、教職員研修の施設として対面型・オンライン型の研修内容が充実するように、また地域に開かれた施設として利用しやすいように整備運営に努めます。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対面・集合型研修 156回 オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型） 79回 ・地域の方への施設開放利用者数 1階 13,092名 体育館及びグラウンド 15,071名 施設利用団体数 81団体 ・教育センター第二分室の相談室2室のエアコン交換修繕を実施 ・学習者用コンピュータ接続のための無線LAN増設工事を実施 ・教育センター体育館の水回りの修繕を実施 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	地域の方への施設開放利用者数（名）	26,545	30,176	28,163	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設開放利用団体の新規登録が年々増えています。 ・教育センターの全研修室で、無線LANを利用した研修ができるようになりました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設開放利用の予約が電話や来所による予約のみになっているので、手続きに時間がかかってしまう状況にあります。 ・駐車場不足により、特に雨天時に参加者の多い教職員研修と施設開放利用が重なると、駐車場が大混雑する状況が起きています。 ・教育センター施設の老朽化等により、天井の雨漏り、体育館の照明切れ（水銀灯）、空調室外機の故障、トイレの不具合等、至る所で修繕が必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・施設開放利用の予約について、インターネット上からでも予約できるようにします。 ・雨天時は乗り合わせや公共交通機関を利用して来所するよう、引き続き周知していきます。 ・施設利用者が快適に利用できるよう、計画的に修繕を進めます。 				

【施策】 6 学びを支える教育環境の整備・充実

【施策の柱】 (5)教育センターの充実

細 施 策	②教職員・保護者・地域との連携研修の充実				担当課	関連指標
					教育センター	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒への対応や情報モラルの育成などの今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 「保護者と共に考える情報モラル研修会」回数 1回、参加人数 市立学校教職員53名、保護者62名 保護者・教員向け「不登校対策支援セミナー」回数1回、参加人数 市立小・中学校教職員9名、保護者10名。 					
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	保護者と共に考える情報モラル研修会参加者数（名）	114	114	115		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル研修会においては、教職員と保護者が情報モラルに関する今日的な教育課題について対面で話し合い、問題意識や課題を共有し、解決方法を考えることができました。 情報モラル教育に対する関心が高まり、各学校においても児童生徒や保護者向けに講師を呼んで研修を行っています。 教職員と保護者を対象に不登校児童生徒への支援の方法を学ぶ研修会「不登校対策支援セミナー」をオンラインで開催し、学校との連携の仕方や、児童生徒の心理面を考慮した関わり方等について研修することができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSやインターネット環境の普及によるいじめや犯罪などのネット上のトラブルから児童生徒を守るために、教職員と保護者が連携し、課題解決に向けてさらに家庭との連携を図っていく必要があります。 情報モラルについての研修会を行っている学校が増え、本研修会の内容と重複するところがあります。 不登校対策支援セミナーでは教職員や保護者の参加人数が少なかったため、研修内容や周知方法等を検討する必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育研修会をオンライン研修（同時双方向型）に変更し、参加する教職員と保護者は各校でオンライン講義を受講後、対面にて協議を行う形式にすることで、問題意識や課題を共有し、連携を図れるようにしていきます。 情報モラル教育やネットトラブル・ネットいじめの未然防止教育を推進し、児童生徒が安心してインターネットを利用できる環境づくりに努めます。 研修内容が重複しないようにするために、各校の情報モラル教育に関する研修の実施状況を把握していきます。 不登校対策支援セミナーでは、教職員や保護者がそれぞれの立場から不登校児童生徒への支援について考えたり、より有益な情報が提供されたりするような研修内容にし、魅力ある研修会にしていきます。 					

施策 7 家庭・地域の教育力の向上

指標1	【項目】 幼稚園・保育園家庭教育講座満足度				【説明】 市内幼稚園・保育園の家庭教育講座受講者アンケートにおける満足度の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	—	—	—	96.1	98.3		70.0
担当課評価								
<p>【担当課】 地域教育支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・市立保育園18園、幼稚園1園で、保護者会等の機会を利用し開催された家庭教育講座に、家庭教育講座登録講師を派遣しました。 ・全市立保育園において、家庭教育講座が開催されるよう支援していきます。 								
指標2	【項目】 コミュニティ・スクール導入校数				【説明】 市立学校におけるコミュニティ・スクール導入校数			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	校	0	5	7	13	56		56
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・令和2、3年度のモデル校に加え、令和4年度の先行実施校の取組を参考に、令和5年度には、全市立学校に学校運営協議会を設置することができました。 ・今後は、継続的に参画できる人材の確保等、各コミュニティ・スクールの取組が充実するよう支援を進めていきます。 								
指標3	【項目】 各地区子どもサポート委員会新規加入委員数				【説明】 各地区子どもサポート委員会への新規加入委員数			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	人	0	16	39	62	74		70
担当課評価								
<p>【担当課】 地域教育支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・目標値の70名は、14地区の子どもサポート委員会において、充て職を除く新規加入委員数が、毎年1名ずつ増えていくことで達成する積み重ねの目標値であり、令和5年度まで着実に増えています。 ・今後は、今まで子どもサポート委員会で行ってきた事業内容について効果検証や見直しを行い、より効果的な取組を展開していきます。 								

施策 7 家庭・地域の教育力の向上		総合評価 A
総合評価について	<p>全体として進捗は順調であり、評価も良好です。 特に指標2の「コミュニティ・スクール導入校数」については、令和5年度からは全市立学校に学校運営協議会を設置することができ、目標を達成しました。 全ての指標について目標を達成していますが、今後は、継続的に参画できる人材を確保する等、各コミュニティ・スクールの取組が充実するよう支援を行うとともに、今まで子どもサポート委員会で行ってきた事業内容について効果検証や見直しを行い、より効果的な取組を展開することで、家庭・地域の教育力の向上を図ります。</p>	
学識経験者等 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会は、設置したことの効果がきちんと出ることが必要である。他校の好事例を共有しながら、導入したあとの運用をしっかりと管理することが必要である。 ・コミュニティ・スクールについては、地域に理解が進むことで、外部人材の確保や地域のコミュニティの活性化にもつながる、大きな可能性があると考えている。この業務を1つの課のみで行うのではなく、ワーキンググループのようなものを作り、他の課との横の連携なども考えていただきたい。 ・放課後子供教室は、継続していくことで子どもと地域が密接に関わっていき、子どもと地域のよい交流の場にもなっているため、新しく実施していく放課後子供教室についても、他の取組を情報共有しながらよりよい取組になるよう引き続き取り組んでいただきたい。 ・子どもサポート事業も含めて、同じ人が関わっていることがよくあるため、組織が形骸化しないような仕組みづくりが大切だと考えている。 ・公民館登録グループは必要がある事を実感しており、誰一人取り残さない市のサポートを考えると、公民館登録グループについては、今後も継続していただきたい。 ・公民館登録グループでなくても、事業の企画提案ができるようにした公民館の運営を考えることも必要である。 	

【施策】 7 家庭・地域の教育力の向上

【施策の柱】 (1)家庭や地域の教育力向上

細 施 策	①家庭教育の支援	担当課	関連指標
		地域教育支援課	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、指導者の養成に努めます。 乳幼児の親や児童生徒の保護者を対象に、子どもの成長・発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会を提供します。 小・中学校PTAで実施している家庭教育学級の企画運営に関する情報提供等を行うことで、家庭教育学級の充実を図り、家庭教育の意義や役割についての保護者の学びを支援し、家庭での教育力の向上を目指します。 家庭教育支援の更なる充実のため、関係機関と連携・協力しながら今後の方策について研究を進めます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育講座登録講師研修会 実施回数 1回 参加者数8名 幼稚園・保育園家庭教育講座 実施講座数 19回 実施保育園 18園 参加者数329名 実施幼稚園 1園 参加者数 34名 親の学習講座 実施校数 25校 参加者数1,918名 (市費講師の未派遣校 2校 参加者数149名を含む) 高等学校家庭教育講座 参加者数130名 PTA家庭教育学級運営講座 参加者数74名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園家庭教育講座は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことから、実施園数が増加しました。 市内のPTAが実施する家庭教育学級を支援することで小・中学校児童生徒の保護者に対する家庭教育の機会の提供を行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもの発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会の提供には、市内小・中学校PTAが実施している家庭教育学級の充実が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> PTA家庭教育学級充実の支援策として、PTA家庭教育学級運営講座、家庭教育学級講師謝金支援事業に加え、PTA家庭教育学級運営のためのマニュアルの作成や事例紹介について実施します。 		

細 施 策	②社会教育関係団体への支援	担当課	関連指標	
		地域教育支援課	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの学びや体験活動の充実を図るため、PTAや子ども会育成会などの社会教育関係団体の活動を支援するとともに、時代や社会情勢の変化に応じた活動の在り方、支援方法を、関係機関と協議・検討します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 川越市PTA連合会 広報紙「P連かわごえ」を年2回発行（7月、12月） 広報紙コンクール（8月）を開催 PTA講演会（12月）開催 川越市子ども会育成団体連絡協議会 広報「ひろば」を年3回発行（7月、1月、3月） ジュニアリーダーを養成・認定するためのジュニアリーダースクール（5回）、ジュニアリーダーを育成するためのジュニアリーダー研修（8回）を実施 新育成者研修会（2月）、川越市子ども会かるた大会（11月）を実施 			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	PTA講演会参加者数（名）	80	146	159
	ジュニアリーダースクラブ登録者数（名）	337	294	234
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 川越市PTA連合会事業は、開催方法等を工夫しながらほとんどの事業を実施しました。 川越市子ども会育成団体連絡協議会事業については、感染症の影響を受けることなく、4年ぶりに全ての事業を実施することができました。ジュニアリーダースクラブ登録者数については、コロナ禍のため活動ができなかった期間が影響し、登録者が減少するとともに退会者が増えるなど全体数が減少しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニアリーダースクラブ登録者が減少しているため、将来、地域を担っていく人材を育成する観点からも、登録者数の増加が必要です。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 川越市子ども会育成団体連絡協議会に対し、ジュニアリーダーの活動についての広報活動や養成などの支援を行います。 			

【施策】 7 家庭・地域の教育力の向上

【施策の柱】 (1)家庭や地域の教育力向上

細 施 策	③地域の教育活動への支援	担当課	関連指標
		中央公民館	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育活動を充実させるため、公民館まつり等を開催し、発表の場を提供するなど、公民館登録グループを支援するとともに、公民館登録グループと協力し公開講座を開催します。 ボランティア養成講座などを実施することにより、公民館活動を通じた地域の教育活動の担い手の育成を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 公民館まつり 17事業実施 公民館登録グループの公開講座 85事業実施 延べ参加者数 1,919名 ボランティア養成講座 8事業実施 延べ参加者数 221名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館まつりは、17事業実施することができました。 登録グループの公開講座は、令和4年度の67事業に比べ増えましたが、延べ参加者が減少しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進む登録グループが多く、年々登録数が減少しているため、公民館活動の活性化に懸念があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 公民館登録グループを増やすための取組を継続するほか、ボランティア養成講座などの登録グループに限らない地域教育活動の担い手の発掘、育成の取組について引き続き検討します。 		

【施策の柱】 (2)家庭・地域と学校の連携・協働

細 施 策	①コミュニティ・スクールの導入の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの導入を促進し、「地域とともにある学校づくり」を進めることで、学校と地域の協働による学校教育の充実を図ります。 学校運営協議会を通して、地域の教育力を有効に生かし、学習支援等の具体的支援を得て、教育活動の充実を図ります。 令和5年度に、市立学校における学校評議員制度をコミュニティ・スクールへ移行します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 全市立学校56校に、学校運営協議会を設置 教職員等を対象にした研修会（外部講師の招聘、グループ協議） 1回 管理職等を対象にした研修会（先行実施校校長によるパネルディスカッション）1回 かわごえミドルリーダー研修会（講義、グループ協議）1回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 全市立学校56校に学校運営協議会を設置しました。 各協議会において取組の推進状況に違いがあります。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保護者や地域住民に、学校運営協議会の設置やその活動について周知を行う必要があります。 継続的に参画できる人材や地域と学校をつなぐコーディネーターの確保や発掘の必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校をつなぐコーディネーターの配置に向けた方策を検討していきます。 管理職をはじめとする学校職員や保護者並びに地域住民等を対象とした活動報告会や、外部指導者による研修等を継続していく予定です。 		

【施策】 7 家庭・地域の教育力の向上

【施策の柱】 (2)家庭・地域と学校の連携・協働

細 施 策	②外部人材の積極的活用			担当課	関連指標
				学校管理課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小、中、特別支援学校が特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域住民と連携し、各学校の学校教育活動の一層の充実を図ります。 地域人材を活用し、専門的知識、技能の習得、地域に根ざした教育等、指導力の向上を図ります。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材活用事業実施回数 273回 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	地域人材活用事業実施回数(回)	167	268	273	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、多様な体験活動が展開できるよう地域住民等との連携を図っています。 学校運営協議会の熟議を通じて、地域住民が積極的に学校運営に参画している学校が増えています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動の充実のため、より一層の外部人材の活用が必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材活用事業の趣旨を周知し、積極的な外部人材の活用を図ります。 コミュニティ・スクールによる地域住民の学校運営への参画の事例を周知し、より一層の外部人材の活用が図れるようにします。 				

細 施 策	③学校評価の活用			担当課	関連指標
				学校管理課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校が設定した目標の達成度や状況を明らかにして、PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケートの実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を図るとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価を実施した学校数 56校(市立学校全校) 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	学校評価を実施した学校数(校)	56	56	56	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員による自己評価、児童生徒やその保護者など外部アンケートの実施、学校関係者評価を実施するなど、全ての学校が適切に学校評価を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価の評価者等に対し、学校の方針や実際の教育活動等について、よく知り、よく理解してもらうことが必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 各学校において、適切に学校評価が行われるよう、年度当初に学校評価の実施時期や方法を周知します。 積極的に学校を公開するとともに、評価者等には、学校評価の評価項目を事前に知らせるなど、学校関係者評価が円滑に進むような方法について情報提供を行います。 				

【施策】 7 家庭・地域の教育力の向上

【施策の柱】 (2)家庭・地域と学校の連携・協働

細 施 策	④学校・家庭・地域の連携推進	担当課	関連指標
		地域教育支援課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、学校、家庭、地域及び社会教育施設が連携・協力し、人と人のネットワークの構築を図りながら、地域の特色を生かした体験活動や学校応援団活動など、地域ぐるみで子どもたちを育てる取組の充実を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 子どもサポート委員会によるイベント型事業数 63件 参加者数 3,354名 子どもサポート委員会による学校応援団活動数 140件 参加者数 7,571名 子どもサポート委員会開催数 110回 参加者数 1,597名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で中止していた活動が再開され、前年度より多くの事業数及び参加者数でしたが、コロナ禍前までとはいきませんでした。社会情勢の変化に対応し、持続可能な事業にするため、各地区が学校と連携し、こども達の実態に即して活動内容の改善を行い始めています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化に伴い、事業の方向性、活動内容の見直しを図る必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 子どもサポート本部会議において、専門部会を設置し、事業の方向性の決定を図ります。 		

細 施 策	⑤放課後子供教室の推進	担当課	関連指標	
		地域教育支援課	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 放課後、地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動を通じ、子どもたちが地域の中で安全・安心に過ごす放課後子供教室について、試行的実施の結果を踏まえ、地域の実情に合わせた導入を推進します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子供教室 実施 11校 146回 延べ参加者数 3,588名 放課後子供教室 試行実施 5校 6回 延べ参加者数 170名 			
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	放課後子供教室実施校数(校)	4	11	16
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 11校で放課後子供教室を実施、5校で試行実施しました。 市立川越高校、県立川越初雁高校、尚美学園大学と連携し、学生ボランティアの協力を得られました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各放課後子供教室の運営委員・ボランティアの確保が依然として、不安定でした。 実施校が増えたことにより、教育委員会の事務量と、各校に対して行わなければならない支援が増加しました。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な運営のため、人材確保するための情報収集に努めます。 各校の運営委員や事務局の事務負担軽減のため、申込み等の手続きのオンライン化等を検討します。 学生ボランティアの協力について、引き続き、近隣の高校・大学への働きかけを行います。 			

施策 8 生涯学習活動の推進

指標 1	【項目】 新規の公民館事業の講座数				【説明】 新規に企画した公民館事業の講座数			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	事業	12	11	36	32	43		18
担当課評価								
<p>【担当課】 中央公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・青少年対象13事業、子育て対象8事業、成人対象19事業、高齢者対象3事業と、様々な世代に事業を実施することができました。 ・令和2年度から公民館事業の実施方法の見直しに着手した結果、新規事業への取組環境が大幅に改善されました。引き続き、事業の改善を図りながら新規に企画ができるよう努めます。 								
指標 2	【項目】 公民館講座新規参加者の割合				【説明】 公民館講座に初めて参加した者の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	—	—	—	65	94		100
担当課評価								
<p>【担当課】 中央公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・公民館事業の実施方法の見直しを行った結果、新規事業の取組が活性化されたことや包括連携協定等を活用したことで、住民のニーズをより捉えられるようになったことが一つの要因で、順調に進捗しています。引き続き、事業の改善を図りながらニーズを捉えた事業の実施に努めます。 								
指標 3	【項目】 デジタルアーカイブの公開件数				【説明】 市立図書館が所蔵する郷土資料を、ホームページ上で自由に閲覧できるようにするため、デジタル化し公開した件数			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	件	8	11	16	20	24		30
評価理由								
<p>【担当課】 中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・令和5年度には4点の郷土資料を撮影し、著作権等を確認して図書館ホームページに公開しました。 								
指標 4	【項目】 小・中学生の図書館利用率				【説明】 小・中学生の人口に対する実利用者数（当該年度中に1回以上の資料貸出者）の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	23.2	13.6	17.6	17.1	17.1		30.0
担当課評価								
<p>【担当課】 中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗はおおむね順調ですが、令和5年度の実績値が前年度のものと比較して横ばいな状態です。 ・非来館型サービスである電子書籍の利用登録者が増加しています。 ・小学校低学年の来館者は、保護者と一緒に事業に参加する家庭が増加している傾向にあります。 ・小・中学生の図書館利用のきっかけとなる、読み聞かせや本を紹介する事業を実施することで、小・中学生の図書館利用率増加に努めます。 								

施策 8 生涯学習活動の推進

指標5	【項目】 展覧会での館蔵資料の公開点数			【説明】 展覧会で公開した館蔵資料の点数				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	点/年	82	339	250	228	515		100
	担当課評価							
【担当課】 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・令和5年度は、各展覧会での公開資料点数を増やし、館蔵資料を積極的に活用したため高い実績値となっています。 ・今後も展覧会で館蔵資料を有効に活用するとともに、ホームページやSNSにより館蔵資料の魅力を発信するなど新たな公開方法を検討し、目標値を達成できるよう努めます。 							
指標6	【項目】 博物館講座・教室受講満足度			【説明】 受講者アンケートにおいて「大変良かった」「良かった」と回答のあった割合				
	単位	現在値 (R1)	実 績 値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	97.0	97.3	100	100	96.7		100
	担当課評価							
【担当課】 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・令和5年度の実績値が令和4年度の実績値より減少していますが、高い水準を保っています。 ・満足度向上のため、引き続き、市民のニーズを取り入れながら、魅力ある事業の実施に努め、講座内容の向上に取り組めます。 							

施策 8 生涯学習活動の推進		総合評価 A
総合評価について	<p>全体として進捗は順調であり、評価も良好です。 特に指標1と指標2に係る公民館事業については、高い実績値を保っており、生涯学習活動の推進のための取組が順調に進んでいます。 しかし、指標4の「小・中学校の図書館利用率」については、近年、現在値に対して実績値が下回る状況が続いています。図書館利用率を増加させられるよう、令和4年度に策定した「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組を進め、実績値の向上に努めます。</p>	
学識経験者等 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生の図書館利用率が低いのは、図書館自体の数が少ないことが原因の一つにあると考える。図書館自体の数を増やすのは難しいと思うが、地域連携や市内の公共施設に図書を分けて置くなど、子どもたちが身近に図書に触れられる環境づくりの取組も進めていただきたい。 ・公民館の事業について、今後も様々な世代が参加しやすい環境を整えていくことも必要である。 ・複合施設の中にある公民館については、他の業務が多岐にわたるため、公民館の業務が後回しとなっている印象を受けている。学校との連携も少ないと感じており、今後は公共施設として、横のつながりも意識して取り組んでいただきたい。 ・公民館の講座開催等を、NPO法人等の外部の団体に任せるなど、団体を活用していく工夫も今後必要である。 ・公民館や博物館等の社会教育施設の改修は重要であり、施設が綺麗に更新されることで、入館者の増加にもつながると考えられるため、今後も計画的に進めていただきたい。 ・博物館と学校との連携は成功してきたと思うが、今後は、時代の変化も踏まえて川越を取り巻く環境にも注視しながら、観光客を意識した視点を持って運営していくことも必要である。 	

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (1)市立公民館の充実

細 施 策	①ライフステージにおける課題や現代的課題の学習	担当課	関連指標
		中央公民館	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康や環境、防災、多文化共生、情報革新といった社会情勢に応じて変化する課題に対応した講座等を開催し、地域の特色と社会の要請に応じた学習機会を提供します。 SDGsを公民館においても地域とともに取り組んでいけるよう、課題解決に対応した講座を実施します。 川越の自然、歴史、文化、環境などを学び、地域に対する関心を高めるため、地域学習事業を推進します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージにおける課題や現代的課題の学習の事業 286事業実施 延べ参加者数 28,679名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施した事業は令和4年度の293事業から7事業減少しましたが、延べ参加人数は9,833人増加しました。高校生対象の消費者教育や高齢者向けのスマホ講座など、各世代の現代的課題に応じた事業を実施しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、未実施の事業数は令和4年度に比べ減少したため、今後は、現役世代や新規受講者の増加を図ることが課題となっています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施において、電子申請での申込、抽選方式の採用、土日平日夜間の事業開催等を検討し、様々な世代がより事業に参加しやすい環境を整えていきます。 		

細 施 策	②生涯学習活動の拠点としての公民館の運営	担当課	関連指標
		中央公民館	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 公民館運営協力委員会を開催し、情報提供等を行って意見を聴取し、市民へのきめ細かな学習機会の提供に生かします。 公民館職員の研修を実施し、社会教育活動指導者としての意識向上及び学習事業の主催者やコーディネーターとしての技術向上を図ります。 公民館事業の実施状況について、公民館運営審議会等の協力を得つつ、自ら点検及び評価を行い、その結果を地域住民に対して公表していきます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 公民館運営審議会 4回 公民館運営協力委員会 27回（14委員会） 公民館職員研修 初任者研修 1回、事業改善研修 1回 事業の実施状況の公表 令和4年度公民館事業記録を作成し、公表 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各公民館運営協力委員会において聴取した意見を参考に、各館において実施事業の改善に取り組んでいます。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在実施している職員研修は、関係法令等の知識習得を主とした初任者研修が中心となっており、実施事業の改善には研修を通じて職員を育成する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度においても全公民館職員を対象に、SNS等を活用した事業の周知方法についてスキルアップを図る研修を実施しました。事業改善のスキルを習得する研修を引き続き実施していきます。 		

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (1)市立公民館の充実

細 施 策	③公民館を活用した子どもの居場所づくりの推進	担当課	関連指標
		中央公民館	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 行政と地域の団体や住民等が連携・協働し、放課後、子どもたちが勉強やスポーツ、文化活動を行える居場所づくりを推進します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 空き部屋を活用した自主学習の場づくりのための取組 4公民館 延べ参加者数 2,829名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に応じて、4公民館で試行的に実施し、延べ参加者数は令和4年度の825名から大幅な増加となりました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施は使用率にも影響されることから施設の使用率の高い施設では取り組みづらい状況です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 空き部屋の活用を試行的に実施しながら、施設利用率によらない図書コーナーやロビーといった共有スペースを活用した環境づくりを進めます。 		

細 施 策	④公民館の設置及び既存公民館の整備	担当課	関連指標
		地域教育支援課・中央公民館	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 身近な学習施設、地域活動の拠点として公民館を整備し、地域の実情に合わせ、施設の複合化等を検討していきます。 地域の学習拠点としての機能を発揮するため、公民館施設の修繕や施設設備の更新を行い、誰もが利用しやすい快適な施設環境を提供します。 		
令和5年度の主な実績	<p>【地域教育支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川越市霞ヶ関北公民館改築工事実施設計、川越市霞ヶ関北公民館建設予定地地質調査業務委託 <p>【中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川越市霞ヶ関公民館ほか空調設備改修工事 川越市山田公民館男子トイレ改修工事 空調設備更新（6公民館） 修繕実施件数 101件（要望件数 108件 実施率94%） 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【地域教育支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に基本設計、令和5年度に実施設計及び地質調査を行いました。令和6年度より市民部地域づくり推進課へ所管替えとなり、仮称霞ヶ関北市民センター整備事業として、整備することとなりました。 <p>【中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模な空調工事とトイレ洋式化改修工事を各1件実施しました。 設備の古くなった空調を6公民館について更新することができました。 <p>課題</p> <p>【中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいることから、今後も突発修繕に対応しながら計画的な修繕を進めていく必要があります。（修繕実施率94%） 		
課題解決のための取組	<p>【中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設修繕については、利用者の安全第一の部分（ライフラインや空調機）を今後も優先的に実施するように努めます。 		

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (2) 市立図書館の充実

細 施 策	①図書館サービスの充実	担当課	関連指標
		中央図書館	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報拠点として、これまで以上に図書館サービスの向上を図る取組を推進します。また、図書館利用に困難がある人に配慮した図書館サービスを行い周知に努めます。 市民の多様な要望に応えるために、各分野の資料の収集に努め、地域資料を整備します。 地域に関する情報提供サービスの事例を公開し、貴重な郷土資料の有効活用を図ります。 いつでもどこでも利用可能な電子書籍の拡充や情報のデジタル化を推進します。 近隣市町との図書館相互・広域利用及び大学や市立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校図書室等との連携を図ります。 児童生徒の調べ学習及び読書活動推進等に向け、市立図書館から学校への図書貸出を推進します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書数4館合計 883,563点 デジタルアーカイブのコンテンツ数 24点 情報提供サービス 6,603件(中央) 図書・雑誌・視聴覚資料等の貸出 1,407,549冊 障害者等への郵送貸出サービス 図書等 219点 情報提供サービスの事例公開件数(レファレンス協同データベース) 6件 電子書籍 貸出延べ回数 16,140回、登録者数 14,073名 相互貸借 貸出冊数 4,966冊、借受冊数 9,318冊 川越市民の相互・広域利用貸出冊数 223,509冊 学校への図書団体貸出 小学校 4,644冊、中学校 635冊、高校 229冊 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の収集方針に基づき、市民の要望に沿った資料の収集に努めています。 近隣市町図書館との相互貸借を行い、市立図書館に所蔵が無い資料も利用者に提供しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子書籍の充実や郵送貸出サービスなど、特に非来館型サービスへの要望が多様化しています。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望に応えられるよう蔵書の充実に努めます。郷土資料の有効活用を図るため、引き続き、デジタルアーカイブのコンテンツ数の増加や情報提供サービスの事例公開に取り組めます。 利用者からの多様化する要望に応えるため、各種図書館サービスの充実に取り組めます。 		

細 施 策	②図書館を利用した学習活動の推進	担当課	関連指標
		中央図書館	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民の多様な学習活動に即した講座や講演会等の事業を推進します。 読み聞かせボランティアや関係機関と連携し、子どもが読書に親しむ環境づくりに努めます。 図書や図書館への興味・関心を持たせるため、市立図書館職員の学級訪問等を通じて、読書活動の推進に努めます。 小・中学生に薦めたい図書のリーフレットを作成し、児童生徒が読書に親しむ環境の充実に努めます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 講座及び展示等(郷土資料解題講座、映画会、各種おはなし会など) 957回開催 小学校3年生に対し、学級訪問及び学級招待を実施(32校、92学級、2,829名参加) 小学校1年生に対し、学級訪問を実施(10校、30学級、875名参加) 推薦図書を掲載したリーフレット配布 小学生用 4回、中学生用 1回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティアや関係機関と連携しておはなし会などの事業を実施しています。 学級訪問及び学級招待を実施し、学習活動を推進しています。 推薦図書を掲載したリーフレットを配布しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川越市立図書館運営方針」に沿った事業の推進を、計画的に行う必要があります。 関係各課と連携し、学習活動を推進する必要があります。 中学生の利用率が低いため、図書館利用の方策を検討する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 「川越市立図書館運営方針」に関連する各種事業について、課題の整理を行います。 「第四次川越市子ども読書活動推進計画」に基づき、学校への団体貸出冊数や児童図書貸出冊数の拡大などに取り組めます。 学習活動推進のため、調べ学習などで図書館利用を促進するよう、学級訪問等の機会にPRを行います。 		

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (2)市立図書館の充実

細 施 策	③図書館施設運営整備事業の推進	担当課	関連指標
		中央図書館	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 時代のニーズに応じた図書館運営方法について検討を進めます。 老朽化した施設・設備の整備、改修を計画的に実施します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館管理者用エレベーター改修工事実施 西図書館事務室系統空調設備改修工事実施 クラッセ川越受変電設備制御機器等改修工事実施 中央図書館非常放送設備交換修繕 クラッセ川越自動ドア駆動部及び防護柵取付修繕 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館については建設から40年、西図書館及び川越駅東口図書館については建設から22年経過しており、冷暖房設備など各種設備の計画的な改修を進めています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川越市立図書館運営方針」に沿った事業の推進を、計画的に行う必要があります。 全図書館を対象とした計画的な改修を検討していきます。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> クラッセ川越の施設の修繕箇所を調査し、庁内関連課の協力を得ながら、図書館の改修計画策定に向け準備を進めます。 		

【施策の柱】 (3)市立博物館の充実

細 施 策	①展示機能の充実	担当課	関連指標
		博物館	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する市民の学習活動への対応と観光に貢献する施設として、常設展示の充実を図ります。 新たな研究成果を反映させるとともに、学びやすい展示など、魅力的・効果的な企画や展示機能の充実に努め、市民はもとより市外からの来館者の増加を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「もののふの美」 入館者数6,247名（令和5年度分） 収蔵品展「資料で見る戦争と川越」 入館者数6,641名 埼玉県名刀展「大名家のお抱え刀工」 入館者数4,606名 企画展「酒と宴」 入館者数11,677名 館蔵資料公開「職人の道具」 入館者数2,013名（令和5年度分） 年間入館者数57,041名（前年度比87.2%） ホームページに収蔵資料紹介コーナーを新設 「受付脇展示ケース」や「ふるさとのまつりコーナー」の展示情報をSNSで発信 展示模型の補強改修を実施し、キャプションをリニューアル 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の博物館の入館者数は、令和4年度と比べて8,370名の減少となりました。 令和5年12月4日から令和6年3月15日までトイレ工事による休館期間がありました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 休館中でも、博物館の展示に興味・関心を持ってもらえるような情報発信の手法の検討が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 受付脇展示ケースやふるさとのまつりコーナーの最新情報を引き続きホームページやSNSで発信するとともに、川越シャトルのデジタルサイネージへ展示情報の掲載を検討します。 小・中学校の学習にも活用できることから、展示・館蔵資料の情報をホームページやSNSを通じて発信することについて、引き続き検討します。 		

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (3)市立博物館の充実

細 施 策	②郷土資料の収集・保存	担当課	関連指標
		博物館	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 川越の歴史と文化に係る資料の収集・整理に努めるとともに、その保存と活用を図ります。 資料を保存する収蔵庫については、収蔵能力が不足しているため、効率的な収蔵保管に努めるとともに、新たな収蔵施設の確保を検討します。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈資料205点 購入資料18点（収蔵資料の累計41,657点） 資料・物品の整理、点検作業の実施 資料整理マニュアルおよび資料整理計画の整備 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料の収集・整理に当たっては、限られた収蔵スペースを効率的に運用するため、資料整理マニュアルに基づき整理作業を継続的に実施しています。 館外収蔵スペースについては、旧あけぼの・ひかり児童園、旧吉田学校給食センター、砂中学校金工室を使用していますが、いずれも収納面積が狭く、保存環境も悪いため、暫定的な利用に留まっています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 膨大な資料の整理作業を進めるため、計画的に行う必要があります。 今後収集していく資料の保管場所の確保および、暫定的に利用している収蔵施設が使えなくなった場合を想定し、恒常的な収蔵施設の確保について引き続き検討が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 今後も貴重な郷土の歴史資料について系統的な収集を行うとともに、館内の収蔵環境が良好に保てるよう、資料整理計画に基づき、物品・資料の効率的な収納を進めます。 恒常的な収蔵スペースの確保に向け、市所有の未活用施設等の情報収集に努めるなどの取組を行います。 		

細 施 策	③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	担当課	関連指標
		博物館	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設として、幅広い世代の学習要求に応えられる多くの事業を展開するとともに積極的な情報発信を行い、市民の利用機会の向上を図ります。 児童生徒が川越の歴史や文化等に興味や関心を持つことができる学習活動の更なる充実を図り、学校教育との連携を進めます。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標:指標6</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 講座教室等の事業開催件数 32件、参加者数1,131名（大人向け事業 参加者数834名、こども向け事業 参加者数297名） 教育活動の一環として博物館を利用した学校数 延べ285校・参加者数24,176名（市内延べ94校・参加者数7,801名、市外延べ191校・参加者数16,375名） 出前授業の実施数 市内小中学校96学級 「のぞいてみよう 人々のくらしのうつりかわり」展 入館者数2,827名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座教室等の事業開催件数は、令和4年度の27件から5件増えて32件となりました。学校利用数は、令和4年度の304校から19校減少し285校となりました。 令和5年12月4日から令和6年3月15日までトイレ工事による休館期間がありました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後はそれぞれの事業の実施内容について充実を図り、参加者の満足度を高めるための検討が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業の実施内容について博物館を利用される方々により満足いただけるよう、講師との事前協議や担当内で新事業の検討を重ねて改善に努めます。 		

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (3)市立博物館の充実

細 施 策	④博物館・蔵造り資料館の整備	担当課	関連指標
		博物館	指標5
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設及び観光拠点施設としての機能を充実させるため、博物館の整備を図るとともに、蔵造り資料館の耐震化を着実に進めます。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 高所作業台、燻蒸庫排水管等の修繕を実施（博物館） 来館者用トイレ改修工事を実施（博物館） 防災設備等の設備保守点検を実施（博物館） 店蔵耐震化工事請負契約を締結・着工（蔵造り資料館） 		
現状・課題	現状		
	<ul style="list-style-type: none"> 資料運搬用エレベーター、非常照明設備用蓄電池設備など施設設備が老朽化しています。 蔵造り資料館店蔵の工事請負契約を締結し、令和8年度までの工期で着工しました。 		
課題解決のための取組	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の施設設備の改修を進める必要があります。 蔵造り資料館店蔵耐震化工事について計画通り進めていく必要があります。 耐震化事業は長期化が見込まれます。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 博物館については、老朽化、破損した箇所の修繕を順次進めます。 蔵造り資料館店蔵耐震化工事について、関係各所と連携して、引き続き適切に施工管理していきます。 		

【施策の柱】 (4)人権教育の推進

細 施 策	①人権教育の充実	担当課	関連指標	
		地域教育支援課	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人権課題に対応した人権教育の充実を図ります。 人権問題を広く市民に考えてもらうため、各種人権啓発資料の作成・活用を図ります。 学校・家庭・地域と連携した各種研修会を実施し、人権課題について正しい理解と認識を育むよう努めます。 児童生徒の心身の成長過程に応じて、人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育を計画的に推進します。 			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 人権啓発資料作成 人権カレンダー30,000部 人推協だより『人権かわごえ』（年2回）各30,000部発行 人権作品集『あけぼの』を2,600部発行、『あけぼの』を活用した授業実践 人権教育推進事業 委嘱公民館3館・委嘱校12校 人権教育推進事業における実践や授業研究会の記録等を『川越市の人権教育』（人権教育実践集録）としてまとめ、200部発行 人権絵画展「いのち・こころを大切にする絵画展」を市立美術館で開催 3日間415名 			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	人権作文・標語・絵画応募総数（点）	695	726	724
現状・課題	現状			
	<ul style="list-style-type: none"> 人権啓発資料や人権教育に関わる成果物を作成し活用することで、同和問題をはじめとする様々な人権課題に対応した人権教育を推進することができました。 			
課題解決のための取組	課題			
	<ul style="list-style-type: none"> 同和問題をはじめとする様々な人権課題を解決し、差別のない明るい地域社会をつくるためにも、学校・家庭・地域が三位一体となり、連携を強めた取組をより一層推進していく必要があります。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 連携を深める取組の一つとして、当課で所管する川越市人権教育推進協議会主催の人権啓発フィルム研修会や人権教育実践報告会の実施に当たり、子ども会育成会やPTA、また教職員等が、各種テーマに基づき意見交換をする場を設け、相互理解が深まるようにしていきます。 			

【施策】 8 生涯学習活動の推進

【施策の柱】 (4)人権教育の推進

細 施 策	②人権教育指導者の養成			担当課	関連指標
				地域教育支援課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人権課題の解決を目指し、市民一人ひとりが正しい認識を深めるため、人権教育指導者養成に努めます。 ・様々な人権課題を網羅的に扱うよう、計画的に教職員研修を行います。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館における人権教育講座の実施 市内18公民館 27講座 参加者1,441名 ・人権教育指導者養成講座を川越市小堤集会所協力委員会で実施 4回 参加者109名 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	公民館における人権教育指導者養成講座参加者数(名)	1,265	1,899	1,441	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各公民館や小堤集会所において、人権教育講座や人権教育指導者養成講座を計画通りに実施することができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民センター構想による公民館事業の見直しに伴い、人権教育講座の事業確保が課題となっており、人権教育講座の在り方を見直す必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講座の実施方法について、複数の公民館による合同開催も可能としたり、一つの講座に対する参加対象者を拡大させたりすることで、より多くの市民が人権に対する正しい理解を深められるようにします。 				

細 施 策	③関係機関・団体等との連携			担当課	関連指標
				地域教育支援課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・団体等と連携した教育活動を推進します。 ・自治会等と連携した教育活動を推進し、学習の場としての集会所事業を推進します。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市小堤集会所習字教室 24回 参加者657名 ・川越市小堤集会所事業 <ul style="list-style-type: none"> フレンドスクール 2回 173名 女性講座 3回 43名 成人・高齢者講座 4回 74名 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	ふれあいまつり参加者数(名)	—	—	161	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小堤集会所事業について、コロナ禍前のようなかたちを目指して実施することができました。特に、フレンドスクールや成人・高齢者講座における視察研修や、集会所事業の集大成でもある集会所ふれあいまつりを4年ぶりに実施することができ、多くの方から充実した感想を得ることができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経たことで、これまで慣例として進めてきたことなどに理解を求めることが難しくなっており、集会所事業の在り方を見直す必要があります。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な集会所事業の実施に向けて、集会所事業の在り方を大きく見直すとともに、各種講座一つ一つの目的や内容を再構築していきます。 				

施策 9 文化財の保存と活用

指標1	【項目】 伝統的建造物の復原等修理費への助成件数				【説明】 川越の町並みを市民や来街者が歩いて体感できるよう実施した伝統的建造物の復原等修理費助成の累計件数				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	件	75	R2 78	R3 82	R4 86	R5 90	R6	R7	93
	担当課評価								
【担当課】 都市景観課	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 経過目標程度の修理事業等を計画的に実施しています。 令和5年度は蔵造り町家4件の修理事業に助成を行い、外観の保全と安全性の向上を図ることができました。 								
指標2	【項目】 重要伝統的建造物群保存地区の防災に関する活動への参加人数				【説明】 重要伝統的建造物群保存地区及びその付近に整備した防災設備を使用しての防災訓練等の参加人数				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	人/年	35	R2 8	R3 12	R4 59	R5 54	R6	R7	50
	担当課評価								
【担当課】 都市景観課	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 昨年度同様、開催内容を工夫したことに加え、一番街通りのテナント店舗にもお知らせを配布するなど周知を徹底したことで、目標値を超える参加がありました。 今後は、テナント店舗の従業員や地区のこどもたちの参加率を高められるよう、周知方法や訓練内容を工夫していきます。 								
指標3	【項目】 河越館跡地の史跡公園整備事業進捗率				【説明】 国指定史跡河越館跡の指定範囲内における史跡公園整備事業の進捗率				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	%	30.4	R2 33.4	R3 36.4	R4 36.6	R5 44.6	R6	R7	50.0
	担当課評価								
【担当課】 文化財保護課	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調です。 令和5年度は、保存活用計画策定に向けて検討を行いました。また、史跡外の未整備地に敷設する道路用地の発掘調査を行いました。 令和6年度は保存活用計画の策定及び史跡外の未整備地の整備事業を進めるため、今後も進捗率が上昇する見込みです。 								
指標4	【項目】 郷土学習を受けた学級数				【説明】 文化財保護課・博物館職員による出前授業とバス利用による博物館内授業を受けた学級数の合計				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)	
	学級	266	R2 74	R3 185	R4 304	R5 279	R6	R7	285
	担当課評価								
【担当課】 文化財保護課 博物館	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は順調ですが、令和5年度の実績値が令和4年度よりも減少しているため、今後の取組には改善が必要です。 (文化財保護課：5学級、博物館274学級) 【文化財保護課】 学校からの依頼が減少したため、教員等と協議し、より学習効果が高まるよう工夫する必要があります。 【博物館】 令和5年度は、バス利用による博物館内授業の天候不良による一部中止等により、令和4年度よりも実績値が若干減少しました。引き続き、学校と連携し、目標値を達成できるよう努めます。 								

施策 9 文化財の保存と活用		総合評価
		A
総合評価について	<p>全体として進捗は順調であり、評価も良好です。</p> <p>特に指標3の「河越館跡地の史跡公園整備事業進捗率」については、史跡外の未整備地に敷設する道路用地の発掘調査を行うことで、大きく目標値に近づけることができました。今後は保存活用計画の策定及び史跡外の未整備地の整備事業を進め、文化財の保存と活用のための取組を継続します。</p> <p>指標4の「郷土学習を受けた学級数」については、高い水準を保ってはいますが、昨年度より実績値が減少してしまいました。引き続き、学校と連携し、実績値の向上に努めます。</p>	
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的建造物の復原等修理費への助成については、昨今の資材単価の高騰もあり、財源負担の問題が大きいと思うが、今後も計画的に実施していただきたい。 ・ 山王塚古墳が国史跡に指定され、このような史跡があることは郷土学習の面でもよい。また、地域社会と山王塚古墳の関係からの視点も持って取り組んでいくとよいと考える。 ・ 川越市文化財保存活用地域計画が文化庁に認定されたが、施設、公園の整備、伝統的建造物の保存や民俗芸能といったことを、次世代にどのようにつなげていくかは大きな課題である。今回の計画後のその先さらに5年、10年も見越しながら計画を進めていただきたい。 ・ 文化財の保存と活用にあっても、行政だけでなく地域も一体となって取り組む必要があり、人と人とのつながりは今後のキーワードになってくると考える。次世代にも文化財の大切さや必要性を認識していただくような取組を進めていただきたい。 	

【施策】 9 文化財の保存と活用
 【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	①文化財の保存と活用				担当課	関連指標
					文化財保護課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な歴史的財産である文化財を後世に残し、伝えるために、文化財の保存に努めるとともに、関係各課と連携し、文化財の価値を生かした活用を積極的に図ります。 ・文化財を次代に継承するため、所有者支援の在り方について関係者とともに検討します。 ・効率的な試掘・確認調査等の実施により、埋蔵文化財に関する基礎情報の収集に努め、工事関係者との保護調整により、埋蔵文化財の効果的な保存を図ります。 ・未指定を含めた文化財について、地域社会とともにその保存・活用を総合的かつ計画的に実行するため、文化財保存活用地域計画を策定します。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財調査件数 81件（発掘調査件数 4件、試掘調査件数 77件） ・その他文化財調査件数 22件 ・永島家住宅（旧武家屋敷）見学者数 1,811名、教育施設等への埋蔵文化財貸出件数 5件、博物館等での県指定文化財の公開件数 6件 ・川越市文化財保存活用地域計画が文化庁より認定（R5.12.15） 					
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	文化財調査件数（件）	48	29	22		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度～4年度は、『川越市の文化財』発刊に向けた既存の指定文化財の確認調査が多かったですが、令和5年度は通常の体制に戻りました。 ・埋蔵文化財調査は、民間の開発に伴う試掘調査が多い状況です。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他文化財調査は、突発的な事案が多いため、優先度を考慮し計画的に調査し、対応していく必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財調査は、民間の開発計画に合わせて、効率的に調査を実施できるよう委託等の活用を検討します。 ・その他文化財調査は、「川越市文化財保存活用地域計画」の方針に基づき計画的な調査に努めます。 					

細 施 策	②無形民俗文化財の保存と後継者の育成				担当課	関連指標
					文化財保護課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみで保存継承する体制の確立を支援します。 ・後世に伝えるための後継者育成の取組を積極的に支援します。 ・映像や画像による記録を行い、保護団体による文化財の伝承に活用できるよう努めます。 					
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者養成・保存事業実施団体数 16件 					
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	後継者養成事業実施団体数（件）	12	12	16		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により中断していた民俗芸能練習等の活動が再開し、事業の実施団体数がコロナ禍以前の数値に戻りました。 ・民俗芸能後継者養成や祭礼行事の保存、用具の保存修理等の事業に対し、保護団体に補助金を交付しました。用具修理に関する相談について、技術的な指導・助言を行いました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化等の影響もあり、地域の伝統行事や民俗芸能の継承が課題です。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能の後継者養成、祭礼行事の保存、用具の保存修理のため、補助金に関する情報を収集するとともに、適切に補助金を保護団体へ交付していきます。 ・特に、継承が難しくなっている民俗芸能・祭礼行事について、団体への聞き取り調査を継続して実施し、各団体が抱える課題を把握するとともに、対応策を検討していきます。 ・平成29年度より実施している無形民俗文化財行事の映像記録保存について、未撮影の行事を優先に、地域の方々と協議しながら進めていきます。 					

【施策】 9 文化財の保存と活用
 【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	③重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実	担当課	関連指標
		都市景観課	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的建造物の保存修理等を実施し、あわせて官民連携による保存技術の継承や、担い手の確保と育成等に努めます。 ・伝統的建造物の耐震化や自主防災体制の整備に努めます。 <p style="text-align: right;">その他の関連指標: 指標2</p>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保存修理事業（国庫補助対象）/山崎家住宅店蔵: 木工事・屋根工事・左官工事・塗装工事・板金工事 小谷野家住宅店蔵: 木工事・石工事・左官工事・塗装工事 平岩・矢萩両家住宅主屋: 木工事・瓦工事・左官工事 宮岡家住宅店蔵: 左官工事 ・地区の啓発パンフレット作成/伝建地区の建造物MAP・防災ガイド ・歴史的建造物の保存技術の継承策の立案に伴うヒアリング調査の実施 ・防災訓練支援/川越まつり会館での地元主体の防災訓練の実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的建造物所有者の修理要望の把握及び保存対策調査を計画的に実施したことにより、修理件数累計が想定目標値を上回っており、順調に進捗しています。 ・伝統工法の技術継承のために、技術者へのヒアリングを実施し、課題抽出を行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の住民や事業者等が災害発生時に適切な活動ができるよう地域主体による定期的な訓練の実施を支援し、防災意識を醸成する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保存修理事業を計画的に実施していくため、引き続き伝統的建造物所有者の意向把握や保存対策調査による現状把握に努めます。 ・市が交付する補助金の財源を確保するため、文化庁等との連絡調整に努めます。 ・歴史的建造物の保存技術の継承策の検討に向けて、引き続き伝統工法の技術を有する技術者や関係団体等を対象としたヒアリング調査を実施します。 ・周知方法や開催内容を工夫しながら自治会等を中心とした防災訓練の開催を支援していきます。 		

細 施 策	④河越館跡の整備・活用	担当課	関連指標
		文化財保護課	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土学習の場、市民の憩いの場として河越館跡史跡公園等の整備を継続し、市民や自治会等の公共団体、NPO法人、大学等と協働してその有効活用を図ります。 		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市河越館跡整備検討委員会を3回開催し、保存活用計画（素案）の内容を審議 ・史跡内を南北に縦断する市道の移設に向け、移設先である史跡外未整備地内道路用地の発掘調査を実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の計画的な保存と活用を図るために、川越市河越館跡整備検討委員会にて保存活用計画の検討をしています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡外の未整備地の整備事業を遅滞なく実施する必要があります。 ・史跡内の未整備地の整備事業を進めるための検討をする必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・河越館跡の適切な保存と活用の計画的実施のために、保存活用計画を策定します。 ・令和6年度は、河越館跡史跡公園の整備に向けて、史跡外の未整備地の整備事業を進めます。 ・令和5年度に策定した「川越市文化財保存活用地域計画」を踏まえ、中長期的なスケジュールも含めて検討します。 		

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (1)文化財の保存と活用

細 施 策	⑤山王塚古墳の保護			担当課	関連指標
				文化財保護課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 国内で最大規模の上円下方墳である山王塚古墳について、未来に伝えるべき貴重な文化財として国指定史跡とすることを目指し、関係機関と協議を進めています。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 山王塚古墳の整備に関することを検討する山王塚古墳整備検討委員会条例の制定 山王塚古墳調査検討委員会の廃止 令和5年7月21日、22日に現地見学会の実施 				
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	山王塚古墳現地説明会等参加者数（名）	21	124	202	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月20日、国史跡に指定されました。現在は川越市で保存管理を行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡の保存活用のための取組を計画的に行う必要があります。 遺構の保存に必要な範囲のうち、地権者、占有者に指定の同意を得られなかった範囲があります。 史跡の価値・重要性を考えると、山王塚古墳の存在が十分に認知されていない状況にあります。 現状では大半が民有地であるため、今後土地の公有化が必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 山王塚古墳の整備と活用を促進するため、令和6年度に整備検討委員会を設置し、令和7年度に保存活用計画の策定を目指します。 地権者・占有者が利用している範囲以外については、除草等の環境整備を実施し、史跡の価値を目視できるように努めます。 国指定へ同意が得られなかった地権者・占有者に対し継続的に説明を行い、同意が得られるよう努めます。 市民等に対して、国指定史跡の歴史的価値を周知するため、今後も公民館事業等に取り上げてもらうことで、普及啓発に努めます。 				

【施策】 9 文化財の保存と活用

【施策の柱】 (2)地域の歴史や伝統文化の継承

細 施 策	①文化財保護意識の啓発			担当課	関連指標
				文化財保護課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 先人の営みの中で生まれ、大切に護り伝えられてきた文化財の価値と保存の意義について、わかりやすく多くの人に伝え理解を深めてもらうために、文化財保護意識の啓発に努めます。 埋蔵文化財は、日常生活では目に触れることがない地下に存在することから、その周知を図るとともに、市民の保護意識の醸成に努めます。 				
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 川越市の文化財等を紹介するホームページの更新 公民館等への講師派遣数 25件 主催講座実施 令和6年2月3日「遺跡発表会」41名参加 令和6年1月18日、2月1日「たかしな遺産めぐり3」36名参加 				
成果実績	項目名(単位)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	職員を講師として派遣した件数(件)	11	22	25	
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財包蔵地は市内360箇所以上に点在しており、所在・範囲を随時更新し、常時窓口で最新の情報を閲覧できるように備えています。 遺跡発表会を通して市内から出土した遺物に触れる機会を提供したり、フィールドワークを行ったりすることで地域の文化財や歴史文化を身近に感じてもらうなど、主催事業の実施を通して文化財保護意識の啓発に努めています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間開発に伴う発掘調査成果は、個人資産に関する情報であるため、公開については慎重に検討する必要があります。 市内各地域に存在する指定文化財等の歴史遺産を啓発するため、公民館等と協力し、市民に向けた講座を継続して実施することが必要です。 				
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査成果を発信可能と判断した遺跡について、遺跡発表会や見学会を通じて公開します。 文化財保護意識の啓発のため、市民向け講座を継続して実施していきます。 				

【施策】 9 文化財の保存と活用
 【施策の柱】 (2)地域の歴史や伝統文化の継承

細 施 策	②地域の歴史・伝統文化の継承に向けた学びの促進	担当課	関連指標
		文化財保護課・博物館	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が地域の歴史・伝統文化への興味・関心を高め、誇りや愛着をもって大切に継承する心を育むため、出前授業及び博物館による積極的な学習の機会の提供を図ります。 ・川越の歴史や文化を守り続けている人々から学び、自分たちの住む「ふるさと川越」を知る機会を創出し、文化を学び育てる取組を推進します。 		
令和5年度の主な実績	<p>【文化財保護課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業の実施 5学級 <p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校利用 178学級（小学校3年生:87学級、6年生:91学級） ・出前授業の実施 96学級 ・野外博物館教室の実施 13名 ・古文書講座の実施 延べ134名 ・民俗芸能実演の実施 273名 ・博物館歴史講座の実施 延べ303名 ・講演会の実施 48名 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【文化財保護課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの要請で出前授業の講師として職員を派遣しています。毎年継続的に「川越まつり」に関する要望があり、その結果、内容も充実し、質的に向上していると認識しています。 <p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校における3、6年生の郷土学習としての博物館利用、学校からの依頼による出前授業の講師としての職員派遣を行っています。また、一般向けに川越の歴史・伝統文化に関連した講座・教室等を開催しています。 <p>課題</p> <p>【文化財保護課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる児童・生徒は毎年異なります。学習効果を高めるためには、事前に教員等と学習の進捗を確認し、内容を協議することが必要です。 ・多くの市民等に川越の歴史・伝統文化について、学びの機会を提供するに当たり、地域との協力体制の構築が求められます。 <p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館での郷土学習、出前授業を実施する際には、各学校における川越の歴史・伝統文化の学びの内容に配慮して実施する必要があります。 ・一般向けの教室・講座等について、継続的に実施できるよう内容について精査する必要があります。 		
課題解決のための取組	<p>【文化財保護課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの要請による出前授業の講師派遣や博物館での学習機会への資料提供に努めます。 ・学校を離れた地域活動に対し、講座等の支援や、これまでの調査に基づく成果等を通じた資料の提供について検討します。 <p>【博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連絡調整を密にし、学校における川越の歴史・伝統文化の学びの内容に配慮した学習内容の充実に努めます。 ・事業を継続して実施できるよう、実施内容を整理し、館内職員が協力して事業を推進できる体制づくりを図っていきます。 		

Ⅸ 用語説明

行	用語	内容
あ	I C T	Information and Communication Technology の略。情報（Information）や通信（Communication）に関する技術の総称。
	I C T活用指導力	「教員の I C T活用指導力チェックリスト」として文部科学省より策定・公表しているが、その範囲は、授業における I C T活用の指導だけでなく情報モラルの指導ができることや、校務に I C Tを活用することも含まれる。
	I C T支援員	授業計画の作成支援、I C T機器の準備・操作支援、校務支援、校内研修等を主な業務内容とし、日常的な教職員の I C T活用支援を行う人材。
	いきいき登校サポートプラン	不登校児童生徒が多い現状に対応するため、学校や地域、専門家等の力を活用して相談体制の充実を図り、不登校児童生徒の減少を目指すもの。令和 4 年度に内容を見直し、「不登校児童生徒支援プラン」の名称に改めた。
	I G b p s ベストエフォート回線	理論上は 1 秒間に 1 Gb の情報を処理することができるという上限を示されているが、実際の利用可能帯域は、回線の混雑状況に左右される回線。1 Gbps でも、数百 Mbps 程度の速度の場合もある。
	インクルーシブ教育システム	すべての児童生徒が共に学ぶことを追求するとともに、連続性のある多様な学びの場を整備した教育システムのこと。
	英語指導助手	日本人の教員の助手として外国語活動・外国語の授業に携わる外国人指導者。
	栄養教諭	食に関する指導と給食管理を一体のものとして行うために配置される県費負担教職員。
	S N S	Social Networking Service の略。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のウェブサイトのこと。
	オールマイティーチャー	積極的な生徒指導を推進し、こどもたちの心の教育やいじめの未然防止、学力向上等、各学校における様々な課題を解決するために配置する市の負担による臨時講師。
か	学級運営支援員	通常の学級において、生徒指導上や発達障害等で個別の配慮を必要とする児童生徒に支援を行うために配置する職員。
	学校応援団活動	学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動のこと。
	学校図書館図書標準	公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成 5 年 3 月に文部科学省が定めたもの。
	学校評価	学校が教育活動の重点目標やその実現のための具体的方策を定め、その実施結果や達成状況について検証・評価を行い、さらにこれを外部に公表することにより、学校運営の改善を図る仕組み。

行	用語	内容
か	学校評議員制度	当該学校の職員以外の者で教育に関する理解及び識見を有するものの中から、校長の推薦により市が委嘱し、委嘱された者は、校長の求めに応じ、学校運営に関して意見を述べるができる制度。
	家庭教育学級	保護者が親としての役割や責任を自覚するため、一定期間継続して、家庭における望ましい生活習慣や倫理観などを学ぶための活動。
	川越市いじめ・不登校対策検討委員会	いじめ問題や不登校の現状把握と分析、総合的な対策の在り方について検討する委員会。
	川越市いじめ問題対策委員会	本市におけるいじめ防止等のための施策等を検討するため、大学教授、弁護士、公認心理師、医師、人権擁護委員、PTA連合会の代表等で組織した委員会。
	川越市エコチャレンジスクール認定制度	川越市環境マネジメントシステムの考え方を取り入れ、環境にやさしい学校づくりに全員で創意工夫しながら取り組むことにより、学校の活動が環境に与える影響を削減するとともに、未来の環境の保全・創造を担う児童生徒を育成することをねらいとする事業。
	川越市小・中学生学力向上プラン	教育委員会と市立小・中学校が目標を共有し、本市の学校教育の更なる充実と子どもたち一人ひとりの学力向上を図ることを目指して策定したプラン。
	川越市中学生社会体験事業	中学校1年生または2年生が連続する2日間または3日間で事業所等の協力により行う職場体験事業。
	川越市ときも学びのプロセス	一人ひとりのこどもの発達や学びを、切れ目のないようにつなぎ、次の段階で一層発展できる教育・保育を目指すために作成した資料。
	かわごえミドルリーダー研修	学校運営の推進者として、教育に対する識見を高めるとともに、学校課題の分析と解決プランの立案、組織マネジメント、人材育成、危機管理等に必要な資質向上を図る研修。
	河越館跡	河越氏は、桓武平氏の流れをくむ秩父氏の一族で、平安時代末から南北朝時代にかけて武蔵国でも有数の勢力を誇った武士である。川越市大字上戸に所在する河越館跡は、河越氏の居館跡とされ、昭和59年12月6日国指定史跡となった。
	GIGAスクール運営支援センター	1人1台端末環境による本格的な教育活動の円滑な運用を支え、児童生徒の学びを保障するための運営支援体制のこと。
	キャリア・パスポート	児童生徒が、自分自身の学習経験の記録を見通しと振り返りの視点をもって、小学校から高等学校までの12年間積み重ねていくもの。
	教育支援室（つばさ教室）	教育センター第一分室（リベール）が開設している、不登校児童生徒に対して、情緒の安定や人間関係の改善等を図りながら学校復帰や社会的自立を支援する教室。
	協働	市民、自治会等の公共的団体やNPOなどの民間団体、企業や大学などの事業者及び行政が、地域の課題に対し、それぞれの果たすべき役割と責任を自覚し、互いに認め合い、共通の目的に向かって、ともに考え、協力し合って取り組んでいくこと。

行	用語	内容
か	グローバル化	個人、企業などが、国内の範囲を超えて広く国際的に行動することによって、世界的な市場やネットワークが進展すること。
	系統	トイレ改修工事において、配管工事を併せて改修する都合上、各校 1 階から最上階まで同じ位置にあるトイレのまとまりを一つとして数えたもの。
	公民館登録グループ	「川越市公民館利用グループの登録及び育成に関する要綱」に基づき、公民館の目的に沿い、登録されたグループ。
	小江戸小・中学生ビブリオバトル	市立小中学校の児童生徒の代表者が集まり、聴衆である参加者の児童生徒に対して、本の紹介をし、一番読みたくなった本を参加者の投票で決定する大会。
	小江戸中学生読書手帳	市立小中学校の教職員や市立図書館職員から募集した「中学生に薦める本」の中から 50 冊を選定し、それぞれの本に紹介文を付けて小冊子にまとめたもの。市立中学校 1 年生に配布。
	小江戸読書マラソン	児童の読書活動の促進を図る事業。30 冊分の書名・著者名や簡単な感想などを記録する読書マラソンカードを市立小学校の全児童を対象に配布。
	小江戸読書名人賞	市立小中学校で実施している「小江戸読書マラソン」及び「小江戸読書手帳」に積極的に取り組んでおり、かつ学校図書館における貸出冊数が目標数を超えた児童生徒が受賞対象となる。
	国際理解教育	国際化した社会で、主体的に行動できる児童生徒の育成を目指すために、日本の文化や伝統等の認識を深め、異文化を理解し世界の人々と協調できる資質や能力を育成する教育。
	子どもサポート事業	こどもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、家庭、学校、地域及び社会教育施設が連携・協力し、人と人とのネットワークを構築しながら、地域ぐるみでこどもたちを育てる体制を作ることが目的とした事業。市内を 14 地区に分け、地域の特色を生かした様々な体験活動を提供する「地域子ども応援団活動」と学校教育を支援する「学校応援団活動」を大きな二つの柱として取り組む。
コミュニティ・スクール	保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会を設置し、学校運営の基本方針を承認し、教育活動などについて意見を述べ、学校と保護者や地域の住民が共に知恵を出し合いながら、児童生徒の豊かな成長を支えていく仕組み。	
さ	埼玉県学力・学習状況調査	埼玉県のこどもたちの学力や学習状況を把握するための調査で、こどもたちの「学力の伸び」や「学力や学習状況の経年変化」を把握することができる。小学校 4 年生から中学校 3 年生を対象としたもの。 (平成 27 年度より開始)
	さわやか相談員	いじめ・不登校等の児童生徒に対する心の問題を解消するため、中学校 22 校に 1 名ずつ配置。児童生徒及び保護者の相談等に応じるとともに、学校・家庭・地域社会との連携を図る。

行	用語	内容
さ	山王塚古墳	豊田町3丁目・大塚1丁目にある上円下方墳。入間川を北西に臨む台地上に7世紀に築造され、南大塚古墳群に属す。上円部の直径37m、下方部一辺69m、墳丘盛土の高さ5mで、国内最大の上円下方墳である。令和5年3月20日、国指定史跡となった。
	自己肯定感	自分の在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する言葉。
	児童生徒体力向上推進委員会	市内の体育主任や保健体育科担当教諭、養護教諭、保健主事、管理職から選出された人で構成。体力向上、健康増進に向けた研究授業等に取り組んでいる
	集会所事業	「川越市小堤集会所条例」に基づき設置している川越市小堤集会所において、教育委員会が実施している事業のこと。
	重要伝統的建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区とは、伝統的建造物群と一体となって価値ある歴史的な環境を保存するため、「文化財保護法」及び「都市計画法」に基づき、市町村が定めた伝統的建造物群保存地区のうち、わが国にとって、その価値が特に高いものとして国が選定した地区。 平成11年4月に、蔵造りをはじめとする町並み及びその周辺約7.8ha（札の辻から仲町交差点までの幸町の全部、元町1丁目、元町2丁目及び仲町の各一部）を川越市川越伝統的建造物群保存地区として都市計画決定を行った。また、同年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。
	主権者教育	政治の仕組みについて、必要な知識の習得のみならず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を育む教育。
	小1プロブレム	入学したばかりの小学校1年生が、集団生活に馴染めず、授業中座ってられない、話を聴かない、騒ぐ等で、授業が成立しない状態。
	情報活用能力	世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力。
	食育	生涯を通じて健全な食生活を実践するために、正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食文化を継承し、自然の恵みなどを理解するもの。
	新体力テスト	文部科学省が、国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進行等を踏まえ、昭和39年以来行ってきた「体力・運動能力テスト」を平成11年に見直して、現状に合ったものとした運動能力に関するテスト。

行	用語	内容
さ	進路指導・キャリア教育	進路指導は、自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、指導援助すること。 キャリア教育は、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育であり、その中核が進路指導である。
	スーパーバイズ	これから取り組もうとする支援、今取り組んでいる支援について、学識経験者等に助言・指導してもらうこと。
	スクールカウンセラー	児童生徒や保護者、教職員に対し、専門的な知識・経験に基づいて相談に応じ、助言や援助を行う専門家。県から小・中学校に配置されている。
	スクールガード・リーダー	各小学校の推薦を受け、市が依頼して、担当小学校の児童の登下校時をはじめとするこどもの安全の見守り、不審者による被害や交通事故の防止の視点に立った通学路の安全点検、その他、こどもの安全確保のための活動における中心的な役割を行う。
	スクールソーシャルワーカー	課題を抱える児童生徒について、その背景にある生活環境への働きかけ及び改善を図るために配置している。教育分野と社会福祉分野の知識・経験を有する専門職。
	全国学力・学習状況調査	文部科学省が実施する、全国のこどもたちの学力・学習状況を把握するための調査。小学校6年生及び中学校3年生を対象としている。
	Society5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもの。
た	多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。
	中1ギャップ	中学校に入学し、学習や生活の変化に馴染めず、不登校やいじめ等が急増する現象。
	展示機能	資料の収集保存、調査研究、展示、教育普及という博物館の主要な機能のひとつ。教育的配慮のもとに資料を陳列し、来館者の利用に供する役割を担う。
	特別支援学級	障害のある児童生徒に対し、障害による学習上または生活上の困難を克服するために設置される学級。
	特別支援教育	幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもので、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるもの。

行	用語	内容
た	特別支援教育コーディネーター	校内における特別支援教育の体制や整備を推進するために、保護者や学級担任の相談窓口になったり、事例の検討や研修会のために地域の関係機関との連携や調整を行ったりする役割を担う。
	特別支援教育支援員	障害のある児童生徒への学習・生活支援を行うために配置する職員。
	トップアスリートふれあい事業	近隣大学のスポーツ分野で活躍する監督・コーチ・学生を小学校に招き、一緒に体を動かすことで、運動の楽しさや喜びを体験し、児童の体力向上の一助とする事業。
は	部活動指導員	市立中学校における部活動の指導体制の充実及び教職員の負担軽減を図るために配置する職員。
	プログラミング教育	コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、学習する教育。
	プログラミング的思考	自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組合せたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。
	放課後子供教室	こどもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、平日の放課後に地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動を行う事業。
	放課後児童支援員	放課後児童健全育成事業（学童保育事業）において、保育士等の資格を有し、都道府県知事等が行う研修を修了した者であって、必要な知識及び技能をもって児童の育成支援にあたるもの。
や	幼児教育振興審議会	「川越市幼児教育振興審議会条例」に基づき、教育委員会の諮問に応じ、幼児教育の振興に関し審議することを目的として設置したもの。
	余裕教室	少子化により児童生徒数、学級数が減少し、将来にわたっても空き教室と見込まれる教室のこと。文部科学省では、余裕教室を「現在は普通教室として使用されていない教室のうち、当該学校の学区に現に居住する児童等の人口を鑑みて、今後5年間以内に、普通教室として使用されることがないと考えられる教室」と定義している。
ら	ライフステージ	人間の一生における児童期、青年期、成人期、高齢期などそれぞれの時期。
	レファレンス協同データベース	国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス。